北海道新幹線新八雲（仮称）駅

駅周辺整備計画

令和7年3月

北海道　八雲町

目　　次

第 1 章 計画の背景・目的 ･･････ 1
1.1 計画の背景 ･･････ 1
1.2 計画の目的 ･･････ 1

第 2 章 新駅周辺整備方針の検討 ･･････ 2
2.1 八雲町の現況 ･･････ 2
2.1.1 人口、産業 ･･････ 2
2.1.2 農業 ･･････ 4
2.1.3 漁業 ･･････ 6
2.1.4 商業・製造業 ･･････ 8
2.1.5 観光 ･･････ 9
2.1.6 交通 ･･････ 16
2.2 新駅周辺の現況 ･･････ 18
2.2.1 上位計画での位置づけ ･･････ 18
2.2.2 土地利用 ･･････ 20
2.2.3 インフラの整備状況 ･･････ 22
2.2.4 市街地からの交通アクセス ･･････ 22
2.3 新駅周辺整備に対する高校生ワークショップの実施 ･･････ 23
2.3.1 ワークショップの目的及び実施内容 ･･････ 23
2.3.2 実施結果 ･･････ 24

第 3 章 新駅周辺整備計画 ･･････ 29
3.1 基本コンセプト・整備方針 ･･････ 29
3.2 導入機能の検討 ･･････ 32
3.2.1 駐車機能 ･･････ 33
3.2.2 飲食機能 ･･････ 37
3.2.3 物販機能 ･･････ 38
3.2.4 情報発信機能 ･･････ 39
3.2.5 工場・生産機能 ･･････ 40
3.2.6 ふれあい・体験機能 ･･････ 41
3.2.7 ガーデン機能 ･･････ 42
3.3 新駅隣接施設の検討 ･･････ 43
3.4 土地利用ゾーニング ･･････ 44
3.4.1 ペコちゃん牧場ゾーン ･･････ 44
3.4.2 観光交流・生産ゾーン ･･････ 44

3.4.3 広場・緑地ゾーン ····· 44
3.5 エリア全体の整備構想 ····· 46

第 4 章 今後の課題 ····· 48

資料編 ····· 49

第1章　計画の背景・目的

1.1　計画の背景

北海道新幹線は、「全国新幹線鉄道整備法」に基づく整備計画で決定された東北新幹線の新青森駅から函館市付近・小樽市付近を経て札幌市に至る延長約 360 ㎞におよぶ路線である。

平成 14 年 1 月 8 日、日本鉄道建設公団（現：鉄道建設・運輸施設整備支援機構）から国土交通大臣に工事実施計画認可申請がなされ、平成 28 年 3 月 26 日には、新青森―新函館北斗駅が開業した。現在、新函館北斗―札幌駅間（211.9 ㎞）の開業に向け、沿線地域と共同での総合的な取組が求められている。

1.2　計画の目的

北海道新幹線新八雲（仮称）駅は、道南地域において太平洋（噴火湾）側の地域と日本海側の地域を結ぶ玄関駅として、広域的な地域の発展に大きな波及効果をもたらすことが期待されている。一方、新駅は JR 八雲駅の西方約 3 ㎞に建設が予定されていることから、市街地との連携を考慮した駅周辺整備計画を図る必要がある。

本計画は、これまで八雲町で策定した関連計画※及び住民意見を踏まえつつ、北海道新幹線新八雲（仮称）駅の立地特性に考慮した新駅周辺整備計画の基本コンセプト・整備方針、導入機能、駅前広場及び駐車場の検討、土地利用ゾーニングを示すことを目的とする。

※　新幹線八雲駅を核とした地域振興計画（平成 12 年 3 月）
　　北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備構想（平成 18 年 12 月）
　　北海道新幹線新八雲（仮称）駅等整備方針（平成 28 年 2 月）
　　北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備基本計画（平成 31 年 3 月）

第2章　新駅周辺整備方針の検討

2.1　八雲町の現況

2.1.1　人口、産業

八雲町の人口は、昭和 45 年には旧 3 町村合計で 28,191 人であったが、それ以降は減少傾向にあり、令和 2 年には 15,826 人となっている。今後も減少が続くと予想されており、令和 27 年には 8,199 人になると推計されている。

年齢 3 区分別の人口推移は、年少人口（15 歳未満）は平成 7 年以降、生産年齢人口（15～64 歳）は平成 17 年以降減少が続く一方で、老年人口（65 歳以上）は平成 7 年以降増加傾向にある。

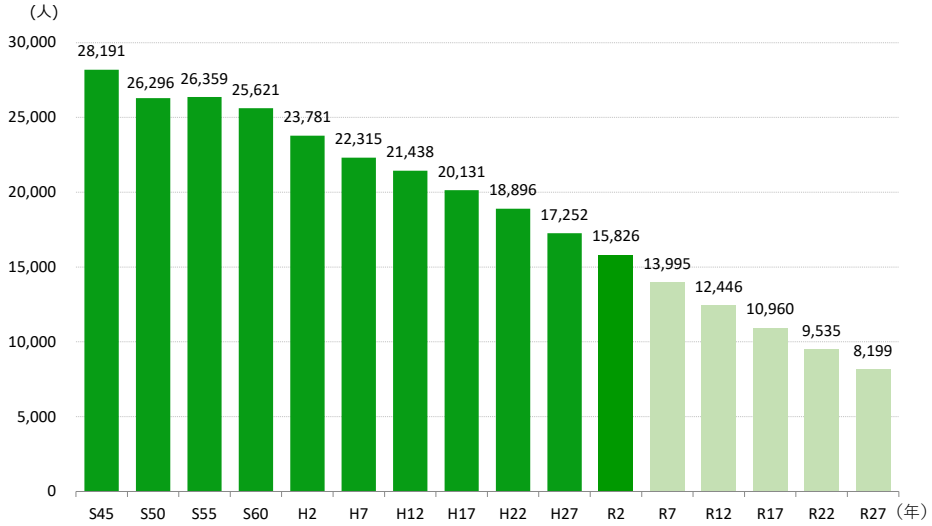


図 2-1　人口推移

（資料：総務省「令和 2 年国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和 5 年推計）」）

※落部村編入、熊石町合併以前(2005 年 10 月)の数値は旧 3 町村の数値を合計している。

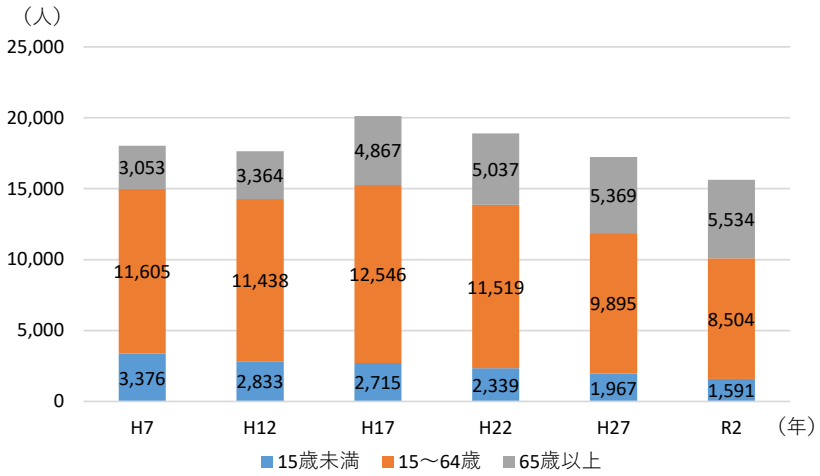


図 2-2　年齢 3 区分別の人口推移

（資料：総務省「令和 2 年国勢調査」）

新八雲（仮称）駅の駅勢圏の人口は、八雲町が 15,826 人と最も多く、次いで森町が 14,338 人、せたな町が 7,398 人となっている。

産業別人口の割合は、医療、福祉（13.0%）の割合が最も多く、次いで建設業（12.0%）、卸売業、小売業（10.7%）、漁業（10.1%）の割合が多い。漁業は全道平均（1.2%）を大きく上回っている。

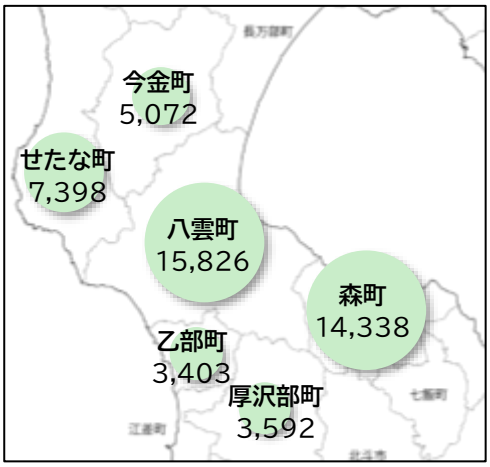


図 2-3　新八雲（仮称）駅の駅勢圏の人口

（資料：総務省「令和 2 年国勢調査」）

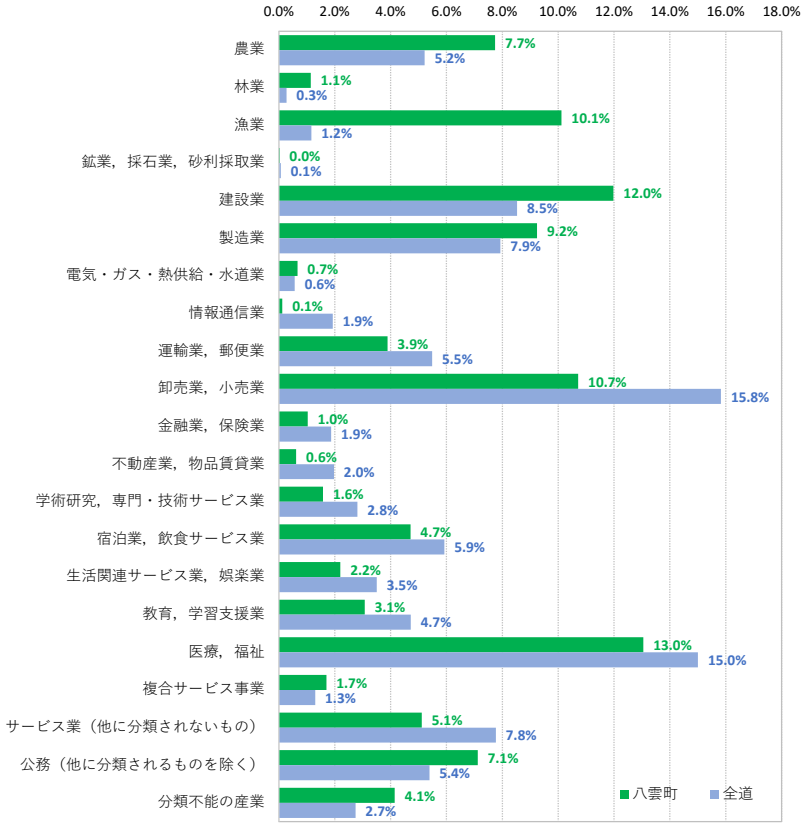


図 2-4　八雲町及び全道の産業別人口の割合

（資料：総務省「令和 2 年国勢調査」）

2.1.2　農業

(1) 農家数の推移

農家数は減少傾向にあり、令和 2 年では 247 戸と、平成 12 年と比較して約半分の水準となっている。

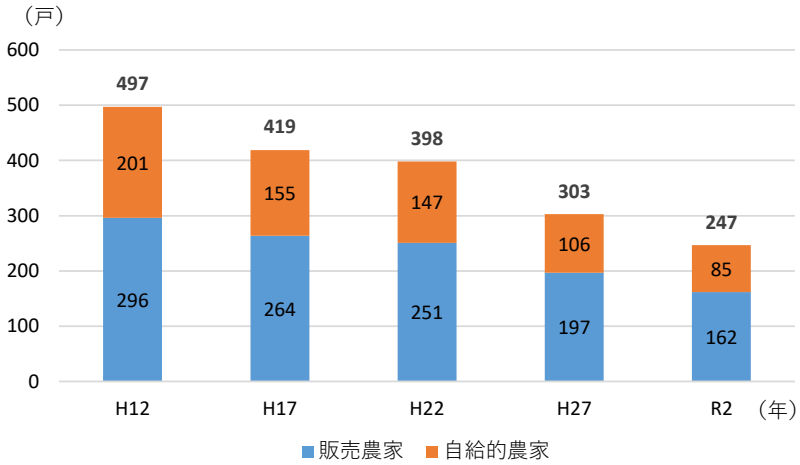


図 2-5　農家数の推移

（資料：農林水産省「2020 年農林業センサス」）

(2) 主要家畜飼養の推移

牛及び豚の頭数は、過去 5 年間で増加傾向にあり、令和 3 年では乳牛 10, 967 頭、肉牛 2, 689 頭となっている。豚は 2 万頭台で推移していたが、令和 2 年に 16, 799 頭に落ち込み、令和 3 年に 19, 144 頭に回復している。

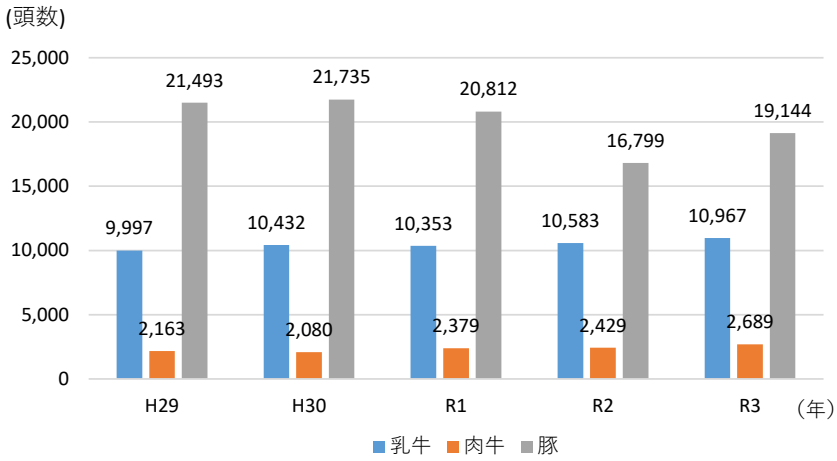


図 2-6　主要家畜飼養の推移

（資料：農林水産省「2020 年農林業センサス」）

(3) 農業生産額の推移

農業生産額は令和 3 年で約 89 億 99 百万円となっている。耕種・畜産別では、畜産 79 億 57 百万円、耕種 9 億 42 百万円と畜産が約 9 割を占める。直近 5 年間では令和元年が最も多く、約 97 億 40 百万円となっている。

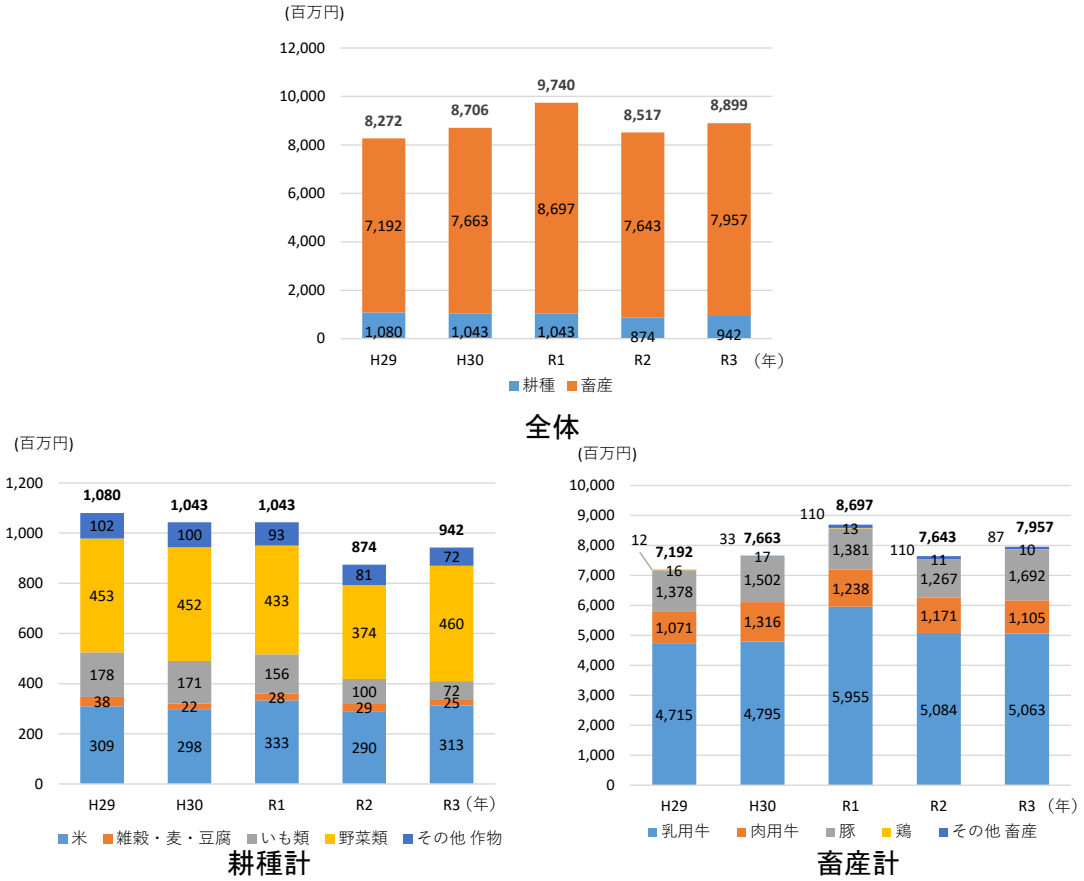


図 2-7　農業生産額の推移

（資料：農林水産省「2020 年農林業センサス」）

(4) 牛乳生産量及び生産額の推移

牛乳生産量及び生産額は、令和 3 年では牛乳生産量は約 45 万トン、生産額は約 4 億 1 千万円となっている。直近 5 年間の推移をみると、令和 2 年までいずれも増加傾向にあったが、令和 3 年では若干減少している。

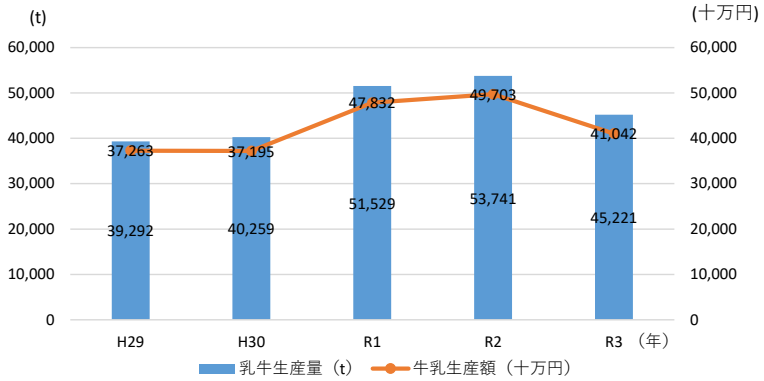


図 2-8　牛乳生産量及び生産額の推移

（資料：農林水産省「2020 年農林業センサス」）

2.1.3　漁業

(1) 主要魚種水揚げ量及び水揚げ高

主要魚種水揚げ量及び水揚げ高は、令和元年以降増加傾向にあり、令和 4 年では水揚げ量は約 25 万トン、水揚げ高は約 87 億 54 百万円となっている。魚種別では、水揚げ量の約 9 割、水揚げ高の約 8 割をほたてが占めている。

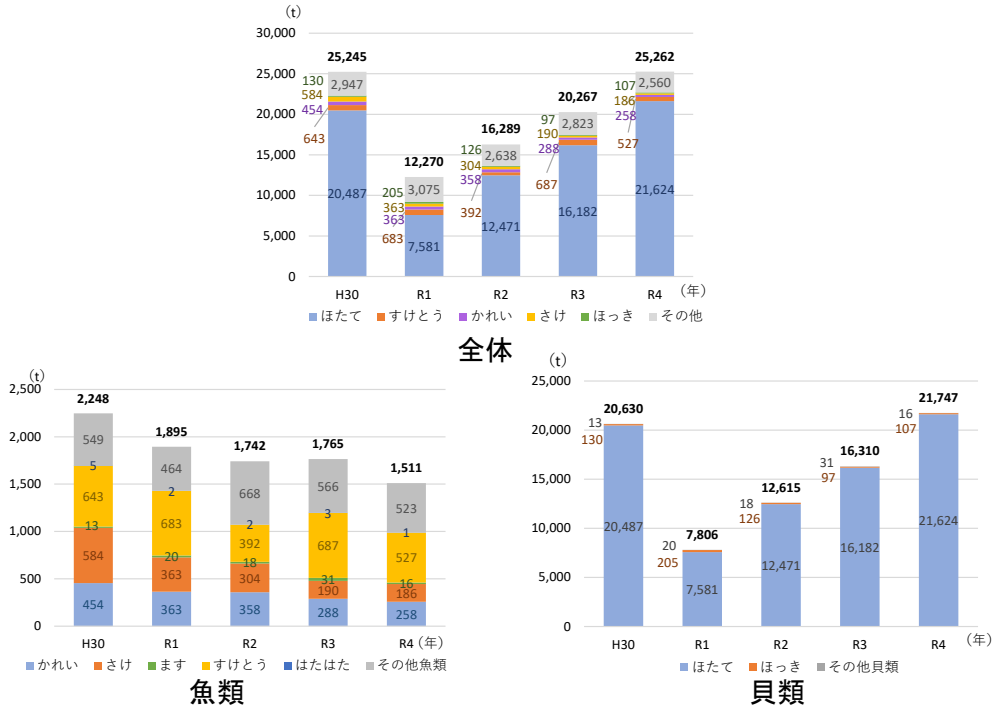


図 2-9　主要魚種水揚げ量

（資料：八雲町資料）

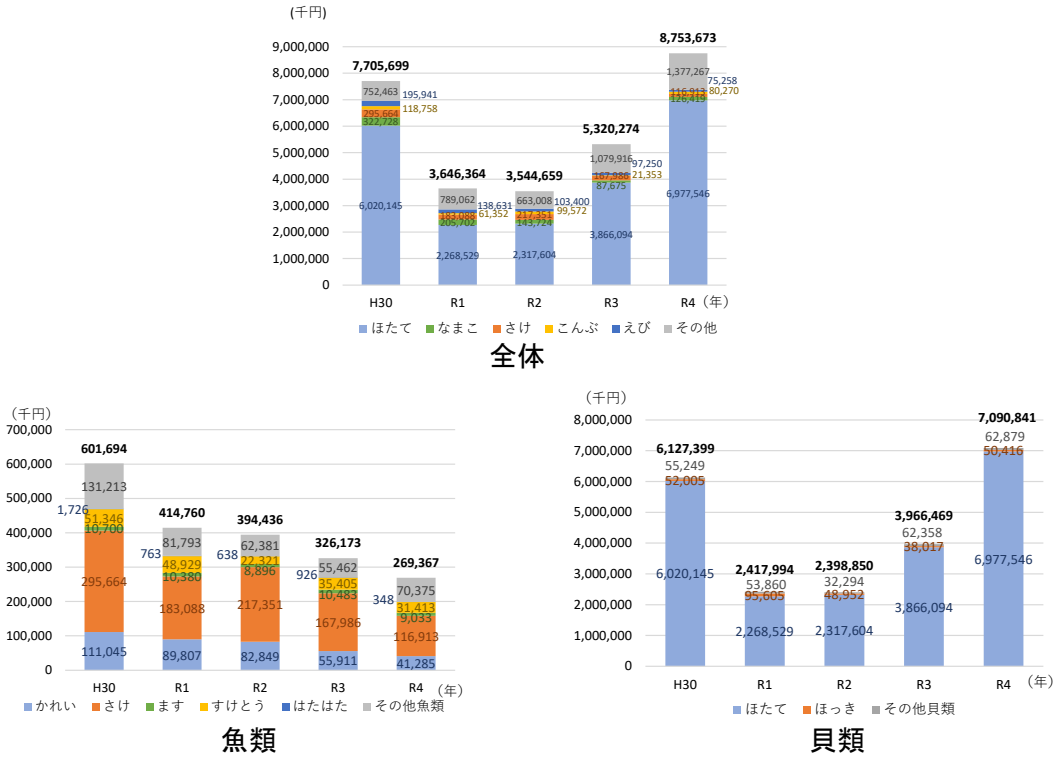


図 2-10　主要魚種水揚げ高

（資料：八雲町資料）

⑵ サーモン養殖プロジェクト

漁業経営の安定並びに地域の活性化を図るため、漁業協同組合と連携した新たな取り組みとして、『北海道初』となるトラウトサーモン養殖の事業化を目指すプロジェクトを推進している。

輸入が大半を占めるトラウトサーモンを八雲町で生産し、『北海道二海サーモン』として、北海道ブランドの確立に向けて挑戦している。令和 2 年 9 月には、ふるさと納税返礼品として全国デビューしている。

①背景

近年、日本海側の旧熊石町地区では主力魚種のイカ・スケトウダラ・秋サケなどの漁獲量が大幅に減少しており、平成 12 年頃に年間 3 万 t を超えたものの、令和 3 年には 3000t と 1 割まで落ち込む。太平洋側の八雲地区では養殖ホタテの原因不明の大量死に直面。漁業を取り巻く環境は厳しさを増している。

更に高齢化や後継者不足なども深刻化しており、平成 7 年に熊石漁協を含む旧檜山支庁内の 8 漁協を合併して新設したひやま漁協の組合員数は設立当初の 1,512 人から令和 2 年には 540 人にまで減少した。

②経緯

こうした現況を踏まえ、漁業経営の安定並びに地域の活性化を図るため、漁業協同組合と連携した新たな取り組みとして、市場において海外産が主流となっているトラウトサーモン（ニジマス）を北海道で試験的に海面養殖する事業を令和元年 12 月より開始した。

当初は青森よりサーモンの幼魚を購入し、海に幼魚を入れることから養殖を開始し、令和 4 年からは「八雲町熊石サーモン種苗生産施設」における中間育成を開始した。現在では卵の孵化から幼魚へ育成し、成魚として水揚げするまでの一貫生産を八雲町内で行っている。

数ある魚類の中でもトラウトサーモンを選択した理由は、子どもから大人までが世代を問わず人気の食材であること、また、回帰率の低下によりサケ・マスの漁獲量が減っていること、さらに青森県のサーモン養殖事業者とのつながりができたことなどが挙げられている。

③取組の効果

令和元年 12 月の開始以降、順調に養殖試験を続け、令和 4 年の水揚げ量は 13.5t、令和 5 年 5 月 24～26 日（養殖 4 サイクル目、熊石漁港）の水揚げ量は 7,266 尾（約 20t）を記録している。

【主な提供実績等】

- 令和 5 年 9 月に二海サーモンフェアを開催し、八雲観光物産協会加盟飲食店・温泉宿 12 店舗にて提供
- 令和 5 年 9 月 16・17 日には噴火湾パノラマパークにて秋の味覚祭りを開催し、二海サーモンを提供
- 令和 5 年 9 月 29 日には NHK 北海道の番組で二海サーモンが道南の絶品グルメとして紹介
- 八雲町在住の子どもたちに給食の材料として提供、町立熊石小学校にて食育・地産地消の授業を実施
- 札幌や函館の大手宿泊施設でのフェアや回転寿司チェーンへの提供
- 現在は八雲町内のスーパー、ふるさと納税の返礼品に出品

2.1.4　商業・製造業

(1) 商店数及び年間商品販売額の推移

商店数及び年間商品販売額は、平成 6 年以降減少傾向にある。平成 24 年以降は緩やかに減少しており、令和 3 年の商店数は 183 事業所、年間商品販売額は約 249 億円となっている。

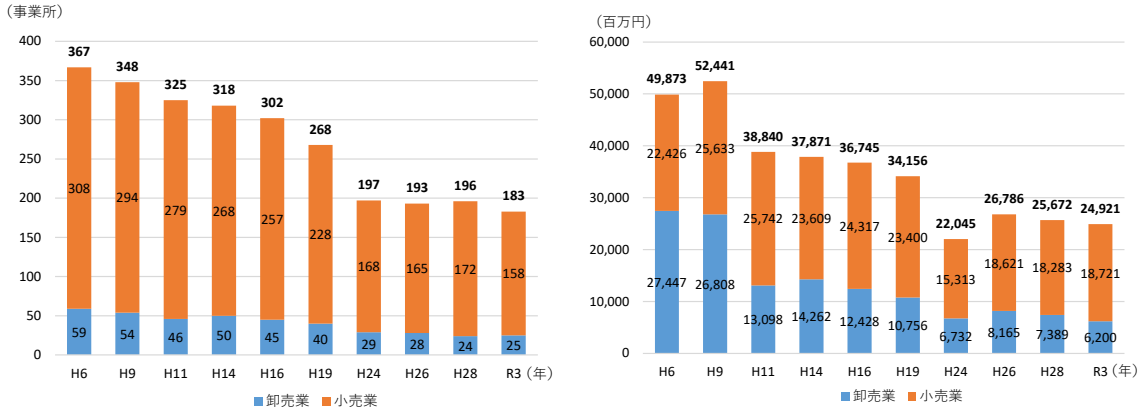


図 2-11　商店数及び年間商品販売額の推移（左：商店数、右：年間商品販売額）

（資料：経済産業省「商業統計調査、令和 3 年経済センサス」）

※合併以前（平成 17 年 10 月）の数値は旧 2 町村の数値を合計している。

(2) 製造品出荷額及び製造業従業者数の推移

製造品出荷額は平成 29 年以降減少傾向にあったが、令和 3 年では回復し、約 320 億円となっている。製造業従業者数についても平成 20 年以降減少傾向が見られたが、令和元年以降は増加に転じ、令和 3 年では 672 人となっている。

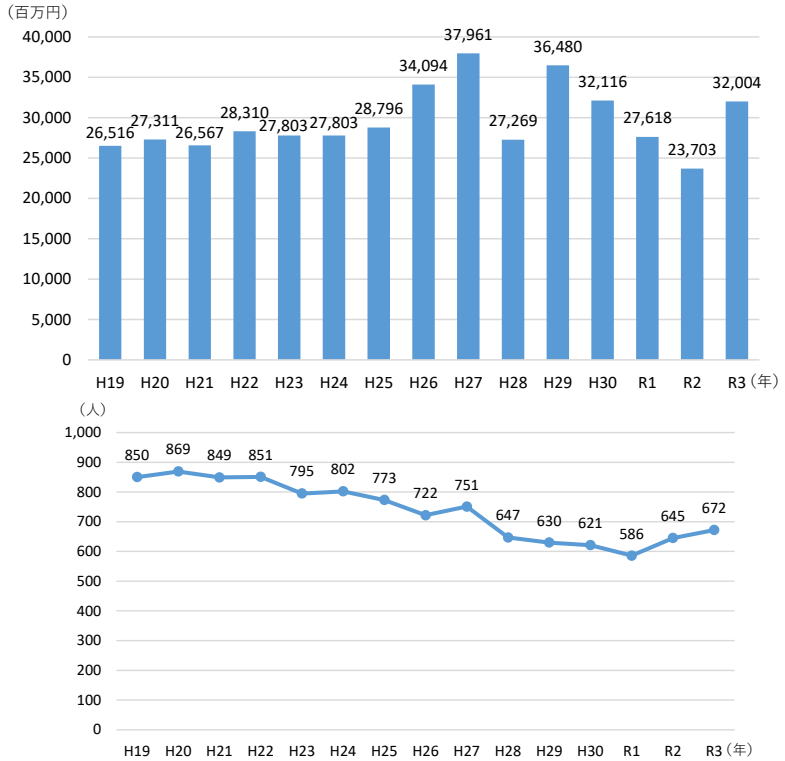


図 2-12　製造品出荷額及び製造業従業者数の推移

（上段：製造品出荷額、下段：製造品従業者数）

（資料：経済産業省「工業統計調査、経済センサス、経済構造実態調査」）

2.1.5　観光

(1) 観光入込客数の推移

令和 4 年度における観光入込客数は約 38.5 万人であり、その多くを日帰客が占めている。平成 28 年度の約 62.8 万人をピークに減少傾向がみられるものの、コロナ禍による一時的な落ち込みの後、現在は回復傾向にある。また、令和元年度以前（コロナ禍以前）と比較して道外客の割合が増加している。

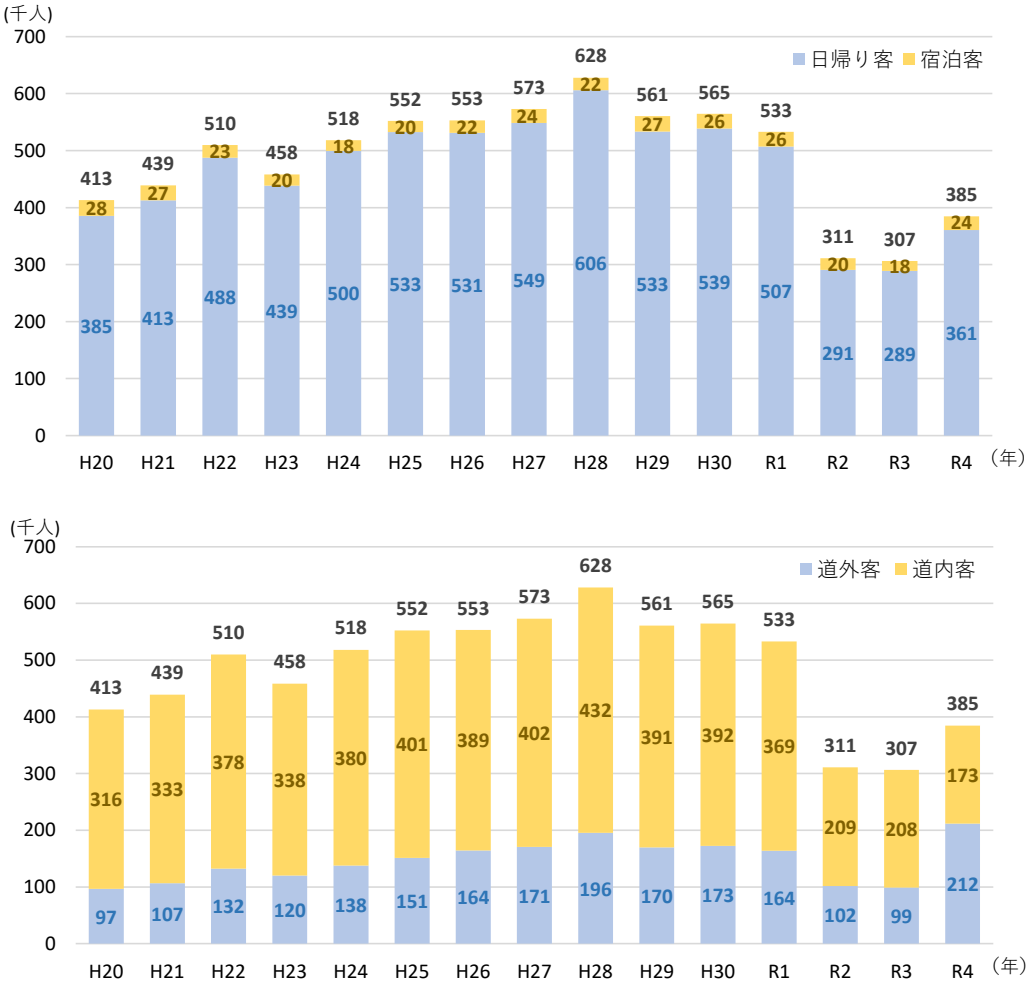


図 2-13　観光入込客数の推移（上段：日帰・宿泊別、下段：道内・道外別）

（資料：北海道「北海道観光入込客数調査報告書」）

月別比率では、8 月の入込が最も多く、7 月～8 月の夏季、大型連休のある 5 月、9～10 月の秋季に入込が集中している。一方で冬季は入込が少なく、全道や道南地域の平均と比較しても低い状況にある。また、コロナ禍以前の平成 30 年度と比較すると、令和 4 年度では季節較差が若干緩やかになっている。

外国人宿泊客延数は、平成 29 年度の 325 人をピークに減少傾向にある。

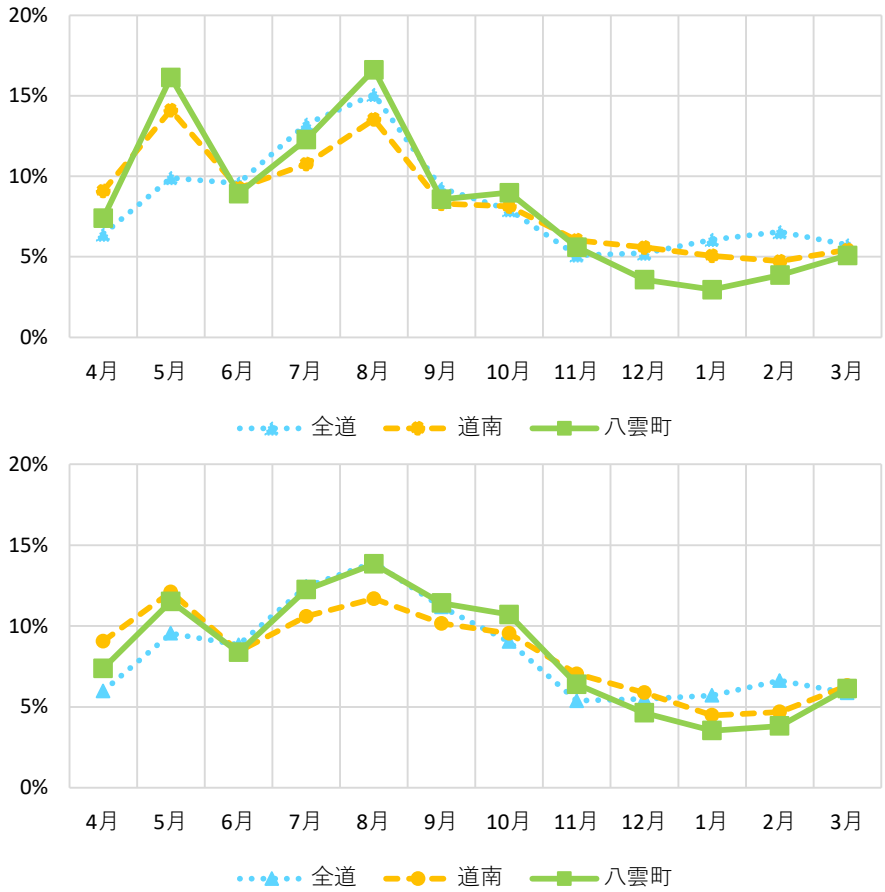


図 2-14　観光入込客数の月別比率（上段：H30 年度、下段：R4 年度）

（資料：北海道「北海道観光入込客数調査報告書」）

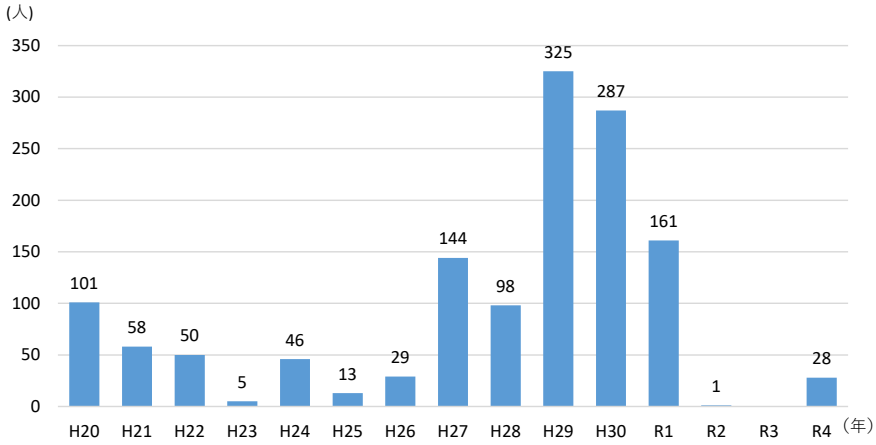


図 2-15　外国人宿泊客延数の推移

（資料：北海道「北海道観光入込客数調査報告書」）

(2) 主な観光地

八雲町の主な観光地は以下のとおり。

町内には、噴火湾パノラマパークや道南休養村、さらんべ公園など、豊かな自然と触れ合える観光スポットが点在するほか、熊石歴史記念館、八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館といった町の歴史や文化に親しめる施設が立地している。

施設名	施設概要	施設イメージ
噴火湾パノラマパーク	・噴火湾を見渡すゆるやかな丘陵地に、アウトドアレクリェーションを楽しめる公園。 ・パークゴルフ場やユニークな遊具を揃えた広場など、家族みんなが楽しめるリゾートパーク。 ・公園の様々な情報の提供を行っているパノラマ館は、「キッズアリーナ」や軽食コーナーなど雨の日でも安心。 ・オートリゾート八雲も併設している。	 （出典：八雲町 HP）
道南休養村	・キャンプ場や森林浴を楽しめる「わんぱくの森」や川遊びのできる「ちゃぷちゃぷ公園」のほか、釣りや海水浴も楽しめる鮎川海岸が近隣に位置しており、大自然を満喫できる。	 （出典：八雲町フォトギャラリー）
ハーベスター八雲	・国産ハーブ鶏発祥の地である八雲町が誇る空と海のレストラン。 ・1988 年に農業の研究を通じて食を考える実験農場として開場。（現在は実験農場を閉鎖） ・ハーブ鶏のフライドチキンのほか、パスタやハンバーグ、オムライス、北海道産モッツアレラチーズを使用したもちもち生地の本格ピザ、八雲産豚肉のスペアリブなど多種多様なメニュー。 ・北海道でもとりわけ牧歌的な風景が有名な八雲町の自然をダイナミックに感じることのできるレストラン。	 （出典：八雲町フォトギャラリー）
梅村庭園・梅雲亭	・町民が身近に緑を鑑賞し、四季を通じて集い楽しめる施設。 ・築山や枯山水、当時では珍しいコンクリート製の灯篭なども配置されている。 ・梅雲亭は 1912 年に建てられた旧梅村家住宅の離れや蔵を利用し、二つの建物をつなぐように建てられた庭園見学できる休息施設。	 （出典：八雲町 HP）
さらんべ公園	・砂蘭部川と遊楽部川の合流地点にある公園で、八雲町における桜の名所の一つ。 ・せせらぎ水路、池、パークゴルフコース、マーメイド像、平和の鐘などがある。	 （出典：八雲町 HP）
遊楽部公園	・サッカーの出来る芝の多目的広場や 18 ホールのパークゴルフ場、アイスクリーム・ハムなどの製作体験のできる「ファームメイド遊楽部館」などが併設された農村公園。 ・大きな乳牛の像がトレードマークで、八雲町における桜の名所の一つでもある。	 （出典：八雲町 HP）

施設名	施設概要	施設イメージ
門昌庵	・道南五霊場の一つで、松前藩のお家騒動「門昌庵事件」の舞台となった寺院。 ・旧熊石町を代表する観光地。	 （出典：八雲町フォトギャラリー）
八雲町育成牧場	・総面積 270ha という広大な育成牧場は海抜 200mの高台にあることから、天気の良い日には、東に駒ヶ岳、西に遊楽部岳、北に八雲市街地・噴火湾の海岸線・羊蹄山を一望することができる大パノラマが広がる。	 （出典：八雲町フォトギャラリー）
熊石歴史記念館	・松前藩時代、和人地と蝦夷地の接点として最北の領地であった熊石の歴史の様子を、模型や展示物を見ながら学ぶことができる。 ・キャンプ場やひらたない温泉などがある道南休養村エリアを構成する施設の一つ。	 （出典：八雲町教育委員会）
黒岩奇岩	・アイヌの人々が住んでいたころからの伝説があり、「神の石シュマカムイ」と呼ばれ信仰の対象。 ・竜が現れたという伝説もある観光スポット。 ・祠は大正時代に大漁や海難防止を願って建立。	 （出典：八雲町フォトギャラリー）
八雲神社	・明治 17 年に愛知より移住した者たちの精神的拠り所として社殿を建設、明治 20 年に故郷である愛知県の熱田神宮より御分霊。 ・熱田皇大神の御分霊に許可が下りたのは史上八雲神社のみということで有名。	 （出典：八雲町フォトギャラリー）
八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館	・八雲地区の歴史・文化・資料等と木彫りの熊を展示した資料館。 ・郷土資料館では「歴史と風土」「開拓と人々の生活」「産業」を柱とし、尾張徳川家のユーラップ開拓を中心として多種多様な資料を展示。 ・木彫り熊資料館では「北海道木彫りの熊発祥の地　八雲」として、北海道第一号の木彫り熊やモデルとなったスイスの木彫り熊など多くの作品を展示。	 （出典：八雲町 HP）
鶴田知也文学碑小公園	・昭和 10 年に「コシャマイン記」を発表し、第 3 回芥川賞を受賞した鶴田知也の文学碑で、八雲が舞台となった作品数十編を著している。 ・後に学生時代に半年間滞在した八雲について、「あの秋の紅葉の激烈な美しさ、冬の大吹雪の厳粛な非情、などに対する感動は私を泣かしめるほどのものだった」と記している。	 （出典：八雲町フォトギャラリー）

施設名	施設概要	施設イメージ
奇岩雲石（くもいし）	・この地方を支配していたアイヌの首長タナケシが和人に対抗して攻め入り、松前藩は苦戦の末に敗戦し、岩陰に身を隠した。すると黒雲が岩の間から湧きあがり、地鳴りとともに辺りが真っ暗になった。アイヌの軍勢はこれに恐れをなして撤退し、松前軍に勝利をもたらしたと言い伝えられた伝説の奇岩。	（出典：八雲町 HP）
円空上人滞洞跡	・円空が 1665 年に松前へと渡り、そこから西太田（現・せたな町大成区太田）まで作像して廻行した際に、熊石に来てこの洞窟に住み作像したとされている。	（出典：八雲町）
落部公園	・噴火湾と落部市街を一望できる高台に位置し、８種類 5000 本のつつじが咲き誇る。 ・つつじだけでなくさくらの園や遊具、こもれびの道などが整備。	（出典：八雲町 HP）
雲石峠	・太平洋側の八雲地域と日本海側の熊石地域をつなぐ峠で、10 月中旬から下旬にかけて八雲町随一の紅葉の名所となる。	（出典：八雲町フォトギャラリー）

(3) 主な特産品

八雲町の主な特産品は以下のとおり。

ブランド牛である「北里八雲牛」のほか、「北海道二海サーモン」、ほたてなどの海産物、チーズ等の乳製品が代表的である。

特産品名	概要	特産品イメージ
北里八雲牛	・北里大学獣医学部附属フィールドサイエンスセンター八雲牧場で飼育されるブランド牛。化学肥料、農薬や除草剤を一切使用しない牧草のみで育てられる。 ・2009 年には国内初、肉用牛で有機 JAS 認証を取得。	 （出典：八雲町 HP）
北海道二海サーモン	・北海道初となるトラウトサーモン養殖事業により八雲町で生産されたサーモン。 ・刺身、切り身、スモークサーモン等の商品が展開されており、令和 2 年 9 月にはふるさと納税返礼品として全国デビューしている。 ※7 ページに概要を掲載	 （出典：八雲町 HP）
ホタテ	・八雲町の基幹産業のホタテ養殖漁業により水揚げされる噴火湾産のホタテ。 ・噴火湾は八雲町の三方を囲む山の恵みと、外海からのプランクトンにより栄養豊富な環境となっている。耳吊りと呼ばれる垂下式で養殖されている。鮮度が良く、甘みの強い大ぶりな身が特徴である。	 （出典：八雲町 HP）
チーズ	・八雲町産の生乳を使ったチーズは、ストレスの少ない環境で育った牛のミルクから作られており、優しい味わいなのが特徴である。生産者は素材本来の味わいを活かせるよう製造しているため、八雲町ならではの仕上がりとなっている。	 （出典：八雲町 HP）
二海カレー	・二海カレーは、八雲産の牛乳をベースにしたホワイトカレーであること、そのほか地元産の食材を 1 点以上使用すること、各店舗にて独自のこだわりを持って提供することを守ったカレーのみ認定されている。	 （出典：八雲町）
バター飴	・北海道土産の定番であるバター飴の発祥の地は八雲町。昭和 6 年にでんぷん飴の中に甜菜糖とバターを配合したバター飴（当時の名称は牛酪飴）を創製し、国鉄八雲駅で立ち売りを開始したのが始まり。 ・現在は過去のレシピを基に復刻版が発売されている。	 （出典：八雲町観光情報ブログ）

特産品名	概要	特産品イメージ
みそ	・平成 17 年に八雲町と熊石町が合併し、食資源がさらに豊かになったことで、原料の一切を町内で調達した「オール八雲みそ」づくりを開始。 ・みそ製造の際に熊石沖水深 300m以深で採取される海洋深層水を使用した商品などもある。 ・尾張伝承の北海道では珍しい赤みその製造も行われている。	 （出典：八雲町）
木彫り熊	・木彫り熊発祥地の八雲町は、今から 100 年ほど前に尾張徳川家当主で八雲の徳川農場主でもあった徳川義親候によってスイスから持ち帰られた木彫り熊（農民美術）を真似て作ったのが始まり。 ・当初は基幹産業であった農業が閑期を迎える冬期の副業や趣味として流行したが、太平洋戦争を経て戦後になると彫り師が激減。 ・現在は昔ながらの置物タイプのほか、現代アートのようなものやストラップ型のものなど、時代に合わせた親しみやすい商品づくりが行われている。 ・昭和 30 年代より流行した、いわゆる「サケをくわえた木彫り熊」はアイヌの木彫り熊であり、野生の熊の姿を参考にしたとされるが、八雲で製造されたものは徳川農場において飼育されていた子熊の姿を参考にしたとされ、親しみのある作風が特徴となっている。 ・八雲で製造されるものは、繊細で日本画に描かれた動物のような毛並みを再現する毛彫りや、面彫りという抽象的に熊の形を捉えた独特の手法が特徴。 ・八雲町におけるまちおこしとして、町内の飲食店・商店などで展示、木彫り熊作成体験の開催、木彫り熊ショップの開業などで木彫り熊発祥の地をアピール。	 （出典：八雲町フォトギャラリー） （出典：八雲町フォトギャラリー）

2.1.6　交通

(1) JR 北海道（旅客）

JR 八雲駅では、特急列車（北斗）が 22 本/日（函館方面行 11 本/日＋札幌方面行 11 本/日）停車している。

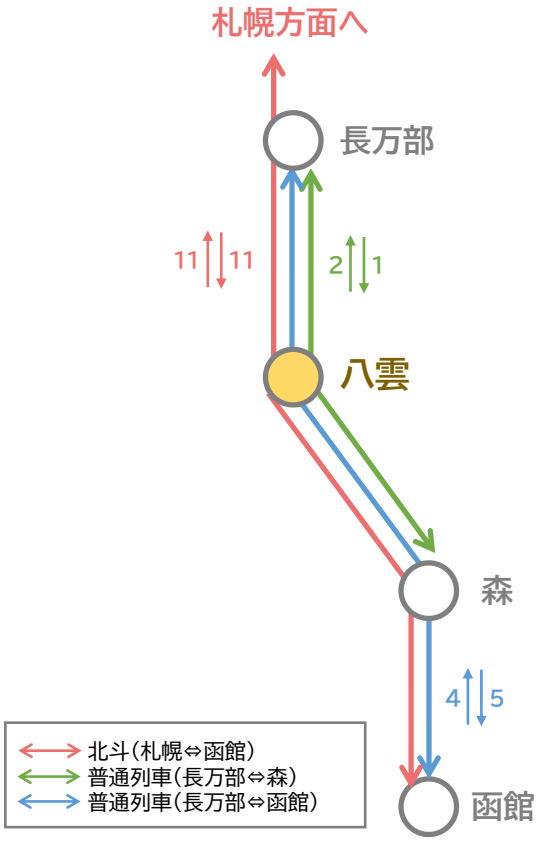


図 2-16　JR 八雲駅に停車する列車

表 2-1　JR 八雲駅の 1 日の運行本数（平日・土日祝、令和 6 年 11 月時点）

	函館方面	札幌方面	合計
普通列車	6	6	12
長万部⇔森	1	2	3
長万部⇔函館	5	4	9
北斗	11	11	22

(2) バス

八雲町内を通過するバスとして、3 路線の路線バス、2 路線のデマンドバス、1 路線の都市間バスが運行している。

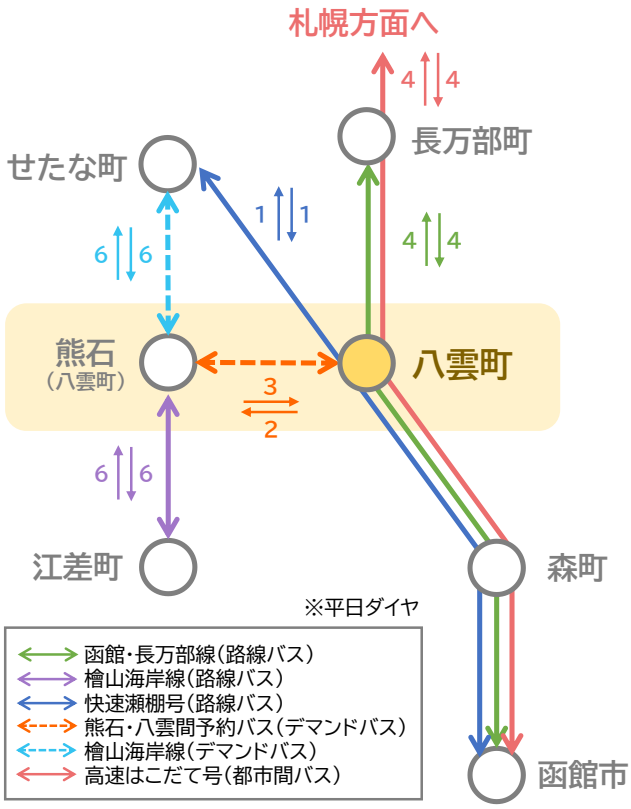


図 2-17　八雲町内を通過する路線バス

表 2-2　八雲町内を通過する路線バスの 1 日の運行本数（令和 6 年 11 月時点）

路線	ルート	本数
函館・長万部線（路線バス）	函館バスセンター⇔長万部ターミナル	4 本/日（平日・土日祝）
檜山海岸線（路線バス）	熊石⇔江差ターミナル	6 本/日（平日・土） 5 本/日（日祝）
快速瀬棚号（路線バス）	上三本杉（せたな町）⇔函館バスセンター	1 本/日（平日・土日祝）
熊石・八雲間予約バス（デマンドバス）	熊石⇔八雲総合病院	2.5 本/日（平日・土日祝）
檜山海岸線（デマンドバス）	太田（せたな町）⇔熊石	6 本/日（平日） 4 本/日（土日祝）
高速はこだて号（都市間バス）	湯の川温泉東（函館市）⇔札幌駅前	4 本/日（平日・土日祝）

2.2　新駅周辺の現況

2.2.1　上位計画での位置づけ

新駅及び周辺地域の位置づけ等を確認するために、第 2 期八雲町総合計画や都市計画マスタープラン、まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略を確認した。

第２期八雲町総合計画（平成 30～令和９年度）

八雲町自治基本条例（平成 22 年 4 月 1 日施行）を踏まえ、時代の潮流への対応や北海道新幹線新八雲（仮称）駅の開業を見据え、平成 30～令和 9 年度（10 年間）の八雲町の町政運営の目標とその実現方法を定めた、「第 2 期八雲町総合計画」を平成 29 年度に策定。また、中間年となる令和４年度に見直しを行い後期基本計画を策定。

主な位置づけ

基本目標1. 八雲町の自然と調和する安心･安全な都市基盤整備

・北海道新幹線工事の着実な進捗を図るため、工事実施主体である鉄道建設・運輸施設支援機構への協力支援に努める。また、各期成会や交通機関と連携し、札幌延伸開業に向けた普及・啓発活動を推進する。

・新幹線駅周辺の整備の考え方及び整備方針について、引き続き北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備推進会議を中心に中高生や有識者などの意見も取り入れ、具体化の検討を進め、新駅周辺整備を推進する。

・北海道新幹線開業に向け、国・北海道及び沿線自治体と連携し、今後の公共交通の在り方を研究する。

基本目標2. 八雲の豊かな資源を活かした産業振興

・北海道新幹線新八雲（仮称）駅開業を見据え、観光の拠点となっている噴火湾パノラマパーク及び情報交流物産館丘の駅への交流人口のさらなる増加と町内経済への効果波及を図る。

・効率的かつ効果的なプロモーションを行うために、北海道新幹線開業後の観光客の動向や消費者ニーズを分析した上で、太平洋と日本海の２つの海を持つまちとして、道南の観光拠点を目指し、多様な地域資源（観光・物産資源）を活用した新たな素材の発掘や磨き上げ、事業者の人材育成を継続し、観光と物産の両面での産業振興を推進する。

・新駅の開業を見据え、開通による利便性の向上や、自然に恵まれた環境、コンパクトな町などといった都市部との勤務環境の違いを活かし、企業誘致への取組を進める。

都市計画マスタープラン（令和５～２４年）

第 2 期八雲町総合計画における理念や目標を受け継ぎつつ、都市部における都市づくりの基本的な考えを示した「都市計画マスタープラン」を令和 4 年度に策定。

主な位置づけ

1. 土地利用の方針

【将来土地需要を考慮した適切な市街地エリアの設定】

・北海道縦貫自動車道（高速道路）が整備され、今後は北海道新幹線も合わせた広域的な交通基盤の整備も進められるが、地形状況、将来動向（人口や土地需要）、町民活動、近隣からのアクセス等に配慮した都市計画区域、用途地域の見直し等を行うことで八雲町に住み、働き、集える快適な都市づくりを進める。

2. 道路・交通ネットワークの方針

【地域と地域をつなぐ交通機能の整備】

・都市の骨格をなす３・２・１内浦通（国道５号）、３・４・８八雲熊石通（国道２７７号）、北海道縦貫自動車道（高速道路）と今後整備が予定されている北海道新幹線の新駅へのアクセス道路などの道道が連携した、交通・観光ネットワークの形成を進める。

・北海道新幹線の新駅と市街地や観光拠点などを結ぶアクセス機能の充実に努める。

【公共交通機関の機能充実・強化】

・新幹線開業に伴う並行在来線経営分離後の対応については、新幹線開業後における沿線住民の足の確保に向けた取組を進める必要があることから、道や沿線市町等との連携により、経営分離区間の安定的かつ効率的な輸送体系を構築するために必要な検討・取組を進める。

3. 公園・緑地・水のネットワークの方針

【道立広域公園の整備による人が集う仕掛けづくり】

・今後整備が予定されている北海道新幹線の開業により観光のアクセスポイントとして、観光客の入込みが見込まれるため、食や体験メニューの創出を図る。

第２期八雲町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略（令和４年 10 月一部改訂）

八雲町の人口減少対策を推進すべく、令和２年度に「第 2 期八雲町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」を策定（令和 4 年 10 月に一部改正）。

主な位置づけ

基本目標3　人が移り住み定着してもらえるようまちの魅力を向上させる

・北海道新幹線延伸に伴い、新八雲（仮称）駅が設けられる。八雲を素通りすることなく下車し、さらに熊石地域へと足を延ばすことにつながる熊石地域の魅力向上、観光ルートの構築に取り組む。

2.2.2　土地利用

(1) 用途指定と制限事項

新駅整備予定地は都市計画区域外であるが、農業振興地域（農用地区域）に含まれている。このため、以下に示すような規定が設けられており、原則として農業以外への利用（一時的なものを除く）が禁止され、農用地区域内の農地の転用については、農用地利用計画において指定された用途に供する場合以外認められないこととなっている。

なお、農用地利用計画の変更（農用地区域からの当該農地の除外）が必要と認められる場合は、農用地利用計画の変更をした上で農地法による転用許可が必要となる。

平成 31 年 3 月の「北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備基本計画」においては、都市計画区域の拡大を検討していたが、現状大半が農地であり、上記の通り一定の開発抑制が見込まれることから、現状の土地利用規制を前提として検討する。

表 2-3　農業振興地域にかかる各種既定の概要

（出典：「北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備基本計画」）

該当法令	条項	許可内容	八雲町における権限保有者		特筆すべき規定
農地法	第4条 第5条	農地の転用	道知事	●	•原則として農業以外への利用（一時的なものを除く）を禁止 •農用地区域内の農地の転用については、農用地利用計画において指定された用途に供する場合以外認められない。なお、農用地利用計画の変更（農用地区域からの当該農地の除外）が必要と認められる場合は、農用地利用計画の変更をした上で農地法による転用許可が必要
			町への委譲		
			農業委員会への委任		
	第18条	農地の賃貸借の解約	道知事		–
			町への委譲	●	
			農業委員会への委任	●	
農振法	第15条の2	農用地区域内の開発行為	道知事		•農用地利用計画に沿ってその用途を変更し農業用施設(＊)の建設を行う場合など、同区域内で開発行為を行う際にはあらかじめ権限保有者（道知事あるいは権限委譲先）の許可が必要 •国又は地方公共団体が転用する場合には許可は不要だが、国又は地方公共団体が行う開発行為のうち、学校、社会福祉施設、病院、庁舎又は宿舎の公共施設については、都道府県知事（振興局）との協議が必要 ※開発行為とは、法律上、「宅地の造成、土石の採取その他の土地の形質の変更又は建築物その他の工作物の新築、改築若しくは増築」を指す
			町への委譲	●	
			農業委員会への委任	●	

＊農業振興地域の整備に関する法律施行規則第1条に該当する農業用施設の範囲

一　畜舎、蚕室、温室（床面がコンクリート敷のものを含む。）、植物工場（閉鎖された空間において生育環境を制御して農産物を安定的に生産する施設をいう。）、農産物集出荷施設、農産物調製施設、農産物貯蔵施設その他これらに類する農畜産物の生産、集荷、調製、貯蔵又は出荷の用に供する施設

二　堆肥舎、種苗貯蔵施設、農機具収納施設その他これらに類する農業生産資材の貯蔵又は保管（農業生産資材の販売の事業のための貯蔵又は保管を除く。）の用に供する施設

三　耕作又は畜産の業務を営む者が設置し、及び管理する次に掲げる施設

イ　主として、自己の生産する農畜産物又は当該農畜産物及び当該施設が設置される市町村の区域内若しくは農業振興地域内において生産される農畜産物を原料又は材料として使用する製造又は加工の用に供する施設

ロ　主として、自己の生産する農畜産物等又は自己の生産する農畜産物等を原料若しくは材料として製造され若しくは加工されたものの販売の用に供する施設

四　廃棄された農産物又は廃棄された農業生産資材の処理の用に供する施設

五　農用地又は前各号に掲げる施設に附帯して設置される休憩所、駐車場及び便所

作目	具体的施設例
米麦	育苗（苗供給）施設、農機具格納庫、ＣＥ、ＲＣ、精米所、麦乾燥施設、籾殻処理加工施設、堆肥舎、米品質改善管理センター、米穀倉庫
果樹	選果場、集荷場、低温・常温貯蔵庫、農機具格納庫、訪花昆虫増殖施設、花粉開約貯蔵施設、堆肥舎、育苗（苗供給）施設、定置配管施設（水源施設、揚水施設、送水施設、薬剤調合施設等）、軌条式・索道式運搬施設、果樹園、枝脱汁施設、夜蛾防除施設、果樹園管理施設、果汁（瓶詰・缶詰）製造施設、果実酒醸造施設
野菜	温室、温室管理施設（集中管理棟、ボイラー室、ポンプ室、石油タンク、高圧受変電施設、貯水槽、薬液調合槽等）、農機具格納庫、堆肥製造施設（堆肥舎・堆肥盤）、定置配管施設、育苗（苗供給）施設、集出荷所（集送センター）、貯（冷）蔵施設、予冷施設、農業生産用資材庫、冷凍施設、塩蔵施設、選果包装施設、乾燥施設、れき耕施設、溶液栽培施設、きのこ栽培施設、漬物製造施設、野菜加工施設
特産物	育苗（苗供給）施設、種苗貯蔵施設、集出荷貯蔵施設、選別調製施設（１荒茶製造、荒茶粉製造、みつまたこうぞの叩解・除渣、香料・薬用・染料、作物の蒸熱用施設、２乾燥施設）、堆肥製造貯蔵施設、農機具収納舎、定置配管施設、給水施設、集中飼育施設、加工施設（い草加工施設、製茶施設等）
花き	育苗（苗供給）施設、定置配管施設、農機具格納庫、温室（管理施設含）球根等冷蔵施設、球根乾燥貯蔵施設、集出荷施設
養蚕	桑園・壮蚕用蚕室、上蔟収繭室、繭集出荷施設、堆肥肥舎、貯桑庫、農機具格納庫、定置配管施設、桑苗供給施設、催青施設、蚕種採取施設、乾繭施設、貯繭施設
畜産	畜舎（搾乳舎）、管理舎（看視舎）、サイロ、乾草舎、飼料調製室、堆肥舎、堆肥盤、運動場、肥料庫（乾燥庫）、家畜用水施設、電気導入施設、集出荷（集乳・集卵）施設、農機具格納庫、家畜糞尿処理施設、保冷貯卵施設、育雛施設、分娩室、薬浴施設、家畜人工受精施設、卵殻施設、パトック、給水（塩）施設、避難舎、食肉（鶏）処理加工施設、家畜市場
その他	病害虫防除施設、多目的恒温恒湿貯蔵施設、営農飲雑用水施設、農作業準備休養施設、農舎、肥料倉庫、農機具用燃料貯蔵施設、農業用廃棄物処理施設（糞尿処理含）、農産物包装処理出荷施設（ダンボール・パックの製造）、排水処理等公害対策施設、農機具修理施設、農産物販売施設、地域食材供給施設

(2) 土地利用の現状

新駅周辺は、国土利用計画の農業地域に含まれており、農用地区域（一部除外地含む）に指定されている。除外地には、資材置き場等の施設が立地している。また、新駅予定地の背後の山林は、地域森林計画対象民有林になっているほか、南側には遊楽部川水系音名川が流れている。

図 2-18　農業地域（農用地区域）

（出典：「国土数値情報」）

写真　新駅周辺の様子（令和 5 年 5 月時点）

2.2.3　インフラの整備状況

新駅予定地は、前面に道道八雲北桧山線（片側１車線）が通っており、それに接続して、町道音名川沿線が通っている。周辺の道路台帳等により、電気・通信・水道・排水等は、以下のとおりと判断される。

表 2-4　新駅周辺のインフラ整備状況

（出典：「北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備基本計画」）

電気	あり
通信	あり（電柱に共架）
水道	上下水道ともになし ※上水道は北海道新幹線札幌延伸開業までに今後整備予定
排水	PCR φ450㎜ 道道－町道接続部に RC 高圧菅 φ600 ㎜
法指定規制等	道道は積雪寒冷地　除雪区間

2.2.4　市街地からの交通アクセス

市街地からのアクセスは、JR 八雲駅を起点とした場合、約 3 ㎞であり、自動車であればアクセス性は高い。新駅前面道路（道道八雲北檜山線）はバス等既存の公共交通が通過せず、公共交通によるアクセスの利便性は低い場所となる。

2.3　新駅周辺整備に対する高校生ワークショップの実施

2.3.1　ワークショップの目的及び実施内容

「新八雲（仮称）駅周辺整備計画」の検討を進める上で、高校生から新八雲（仮称）駅に関する意見をいただくため、八雲高等学校 2 年生の 10 名（2 グループ）を対象としてワークショップを実施した。各回の概要は下記のとおり。

日程/場所	目的	ワークショップの内容
第 1 回 令和 5 年 9 月 21 日／北海道八雲高等学校	・駅周辺整備計画の概要を説明し、ワークショップの目的を共有した上で､以下の 2 テーマについて意見を交わす ①八雲町の良いところ･悪いところ ②新幹線の開業に期待すること	**【当日の説明】** ・ファシリテーター(司会進行役)の紹介と挨拶 ・ワークショップの目的について ・新八雲（仮称）駅の概要説明 ・ワークショップの概要説明、進め方 **【テーマ①】** ・八雲町の良いところ・悪いところ **【テーマ②】** ・新幹線の開業に期待すること **【グループ発表】**
第 2 回 令和5年10月 10 日／北海道八雲高等学校	・第 1 回ワークショップの振り返りをした上で、以下のテーマについて意見を交わす ③新八雲（仮称）駅前にあったら良いもの	**【当日の説明】** ・第 1 回ワークショップの振り返り ・第 2 回ワークショップの概要説明 **【テーマ③】** ・新八雲（仮称）駅前にあったら良いもの **【グループ発表】**

図 2-19　ワークショップの実施風景（上段：第 1 回、下段：第 2 回）

2.3.2　実施結果

(1) 第１回高校生ワークショップ

第１回高校生ワークショップでは、「①八雲町の良いところ・悪いところ」、「②新幹線の開業に期待すること」の２テーマについて意見を出し合った。

①八雲町の良いところ・悪いところ

八雲町の良いところとしては、「食べ物がおいしい」、「豊かな自然」、「コミュニティのあたたかさ」のほか、「函館～札幌間の中継地点になりえる」という将来的な発展性に関する意見が挙げられた。

八雲町の悪いところとしては、「交通手段が少ない」、「観光・商業・娯楽施設が少ない」のほか、豊かな自然に対して「海が汚い・牧場の匂いが気になる・快適な天候である時が少ない」、コミュニティのあたたかさに対して「コミュニティが狭い」といった意見が挙げられた。

②新幹線の開業に期待すること

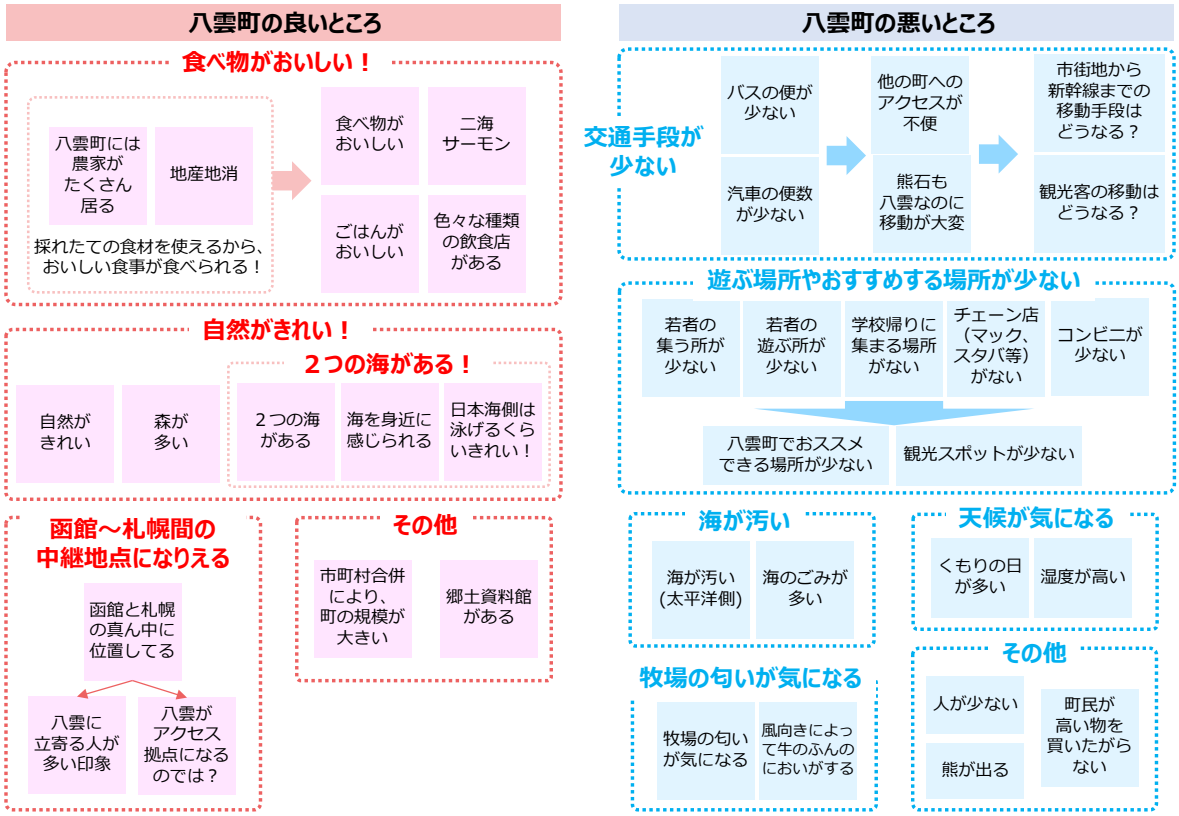
新幹線の開業に期待することとして、主に「自分にとってのプラスの期待」、「地域にとってもプラスの期待」、それらを踏まえた「新幹線整備に求めること」について意見が挙げられた。自分にとってのプラスの期待としては、「行動範囲の拡大」や移動時間が短縮されることによる「通勤・里帰りの利便性向上」、さらに「遊ぶ時間・家族と過ごす時間が増える」といった意見が挙げられた。

地域にとってもプラスの期待としては、「公共交通の利便性向上」、「観光スポットや宿泊施設の増加」、「八雲町の文化が広がる・知名度アップ」などの意見が挙げられた。

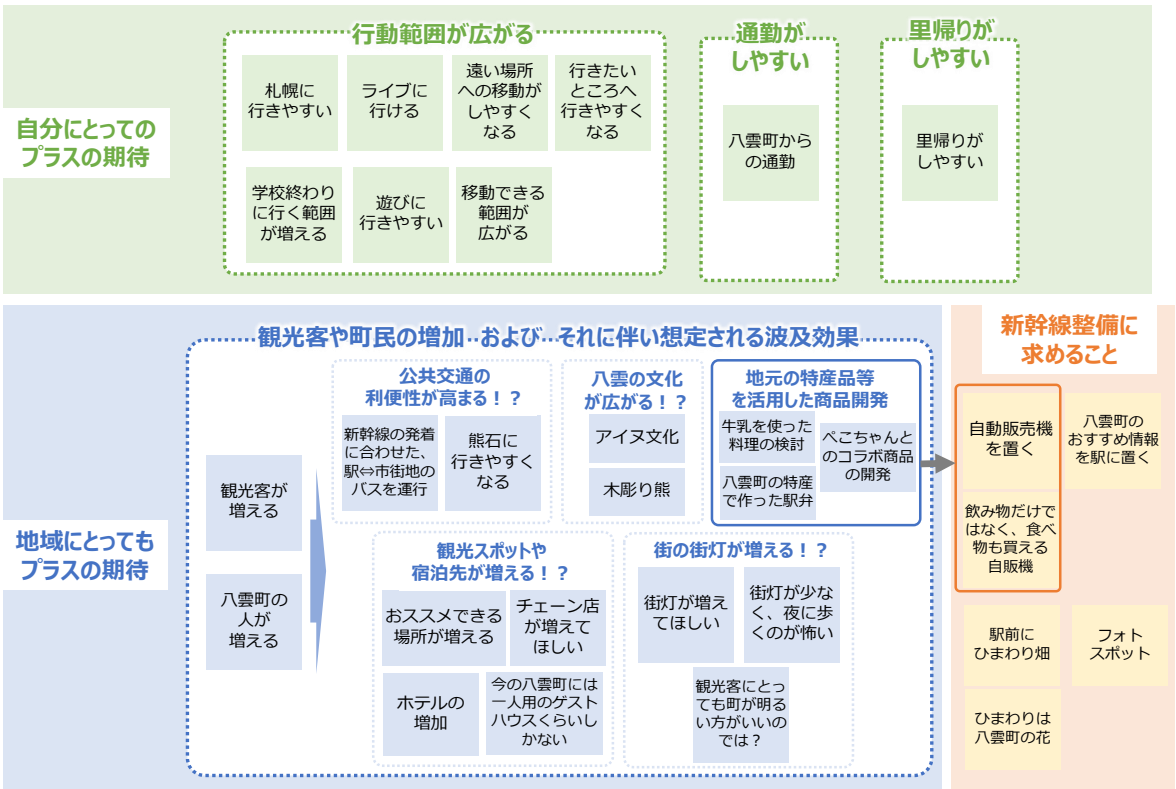
これらの期待を踏まえ、新幹線駅整備に求めることとして、「自動販売機の設置（飲食物が購入可能なもの）」、「八雲町のおすすめ情報を駅に設置」、「駅前にひまわり畑を設置」などの意見が挙げられた。

【A グループ】

【テーマ①　八雲町の良いところ・悪いところ】

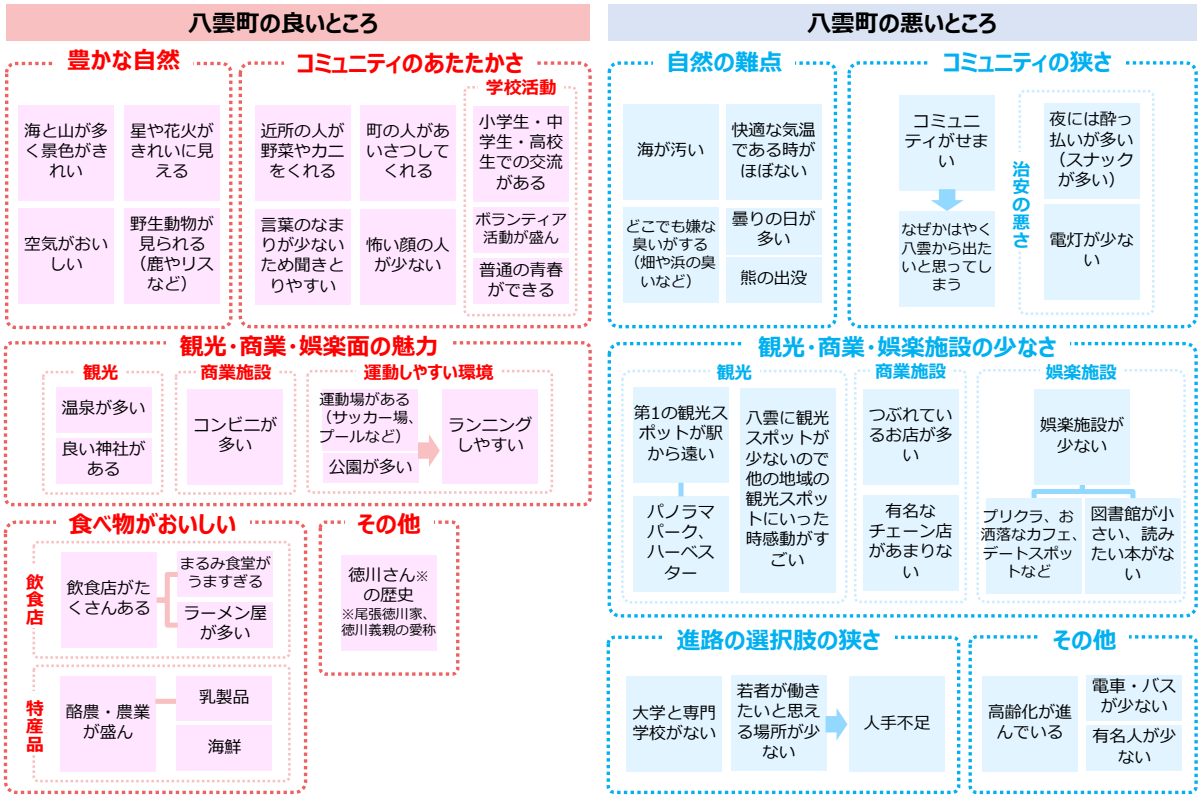


【テーマ②　新幹線の開業に期待すること】

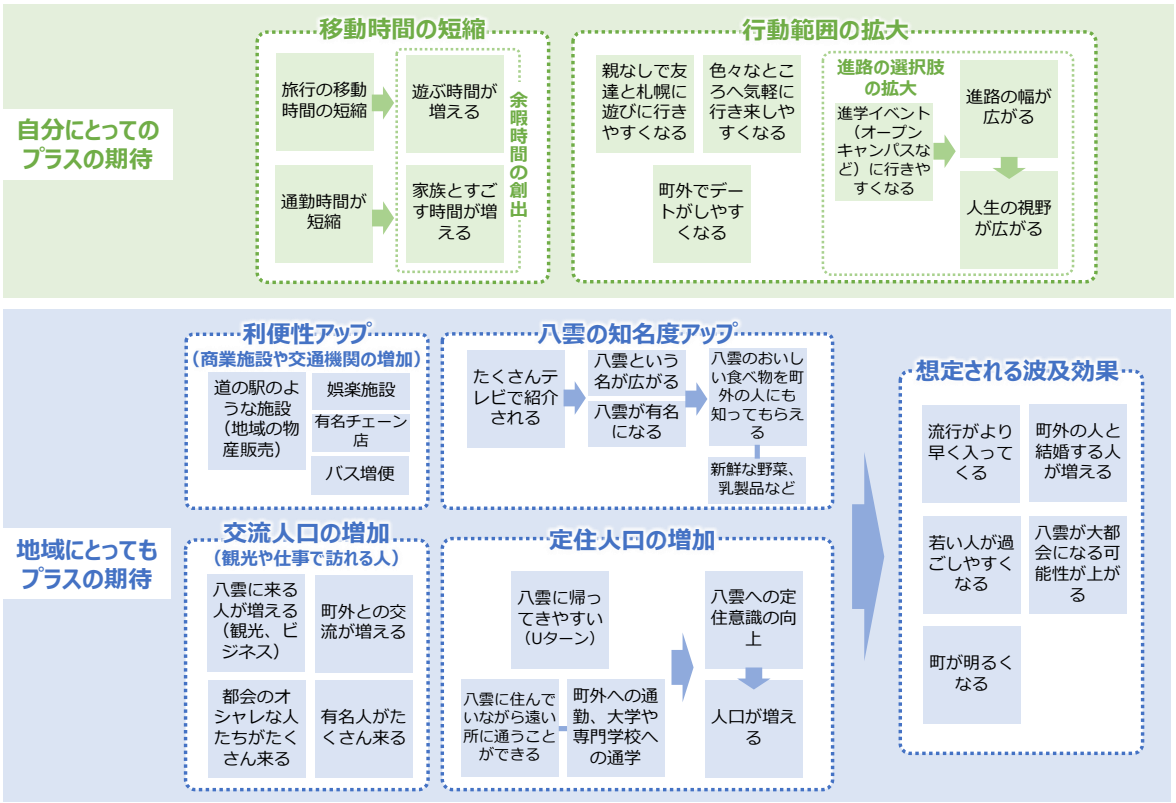


【B グループ】

【テーマ①　八雲町の良いところ・悪いところ】



【テーマ②　新幹線の開業に期待すること】



⑵ 第 2 回高校生ワークショップ

第 2 回高校生ワークショップでは、「新八雲（仮称）駅前にあったら良いもの」について意見を出し合った。

①新八雲（仮称）駅前にあったら良いもの

牧場の景観を活かした施設として、「ガラス張りのレストラン・カフェ」、「フォトスポットの設置」、「展望台」、「公園・アスレチック」などが挙げられた。

八雲町の特色を活かす施設としては「木彫り熊の博物館」、「熊牧場（地域の動物とのふれあい)」などが挙げられ、これらの施設で実施できる「木彫り熊づくり」、「牛の乳しぼり」、「鮭釣り」等の体験プログラムに関するアイデアが挙げられた。

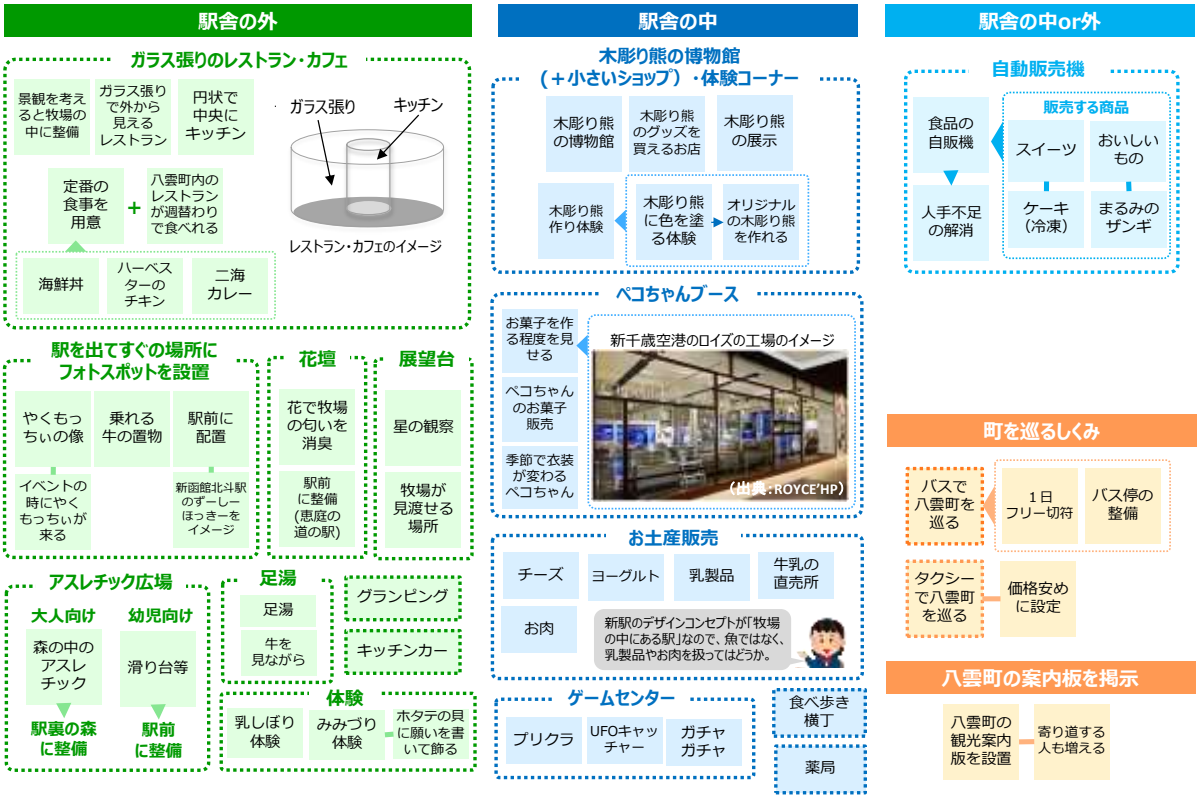
地域の物産販売については、「牧場の中にある駅」というコンセプトを踏まえ、乳製品やお肉の販売のほか、人手不足解消の観点から「食品自販機の設置（無人販売)」といった意見が挙げられた。

また、八雲町と「ペコちゃん」のゆかりを活かし、㈱不二家の製菓工程が見学できる「ペコちゃんブース」や、シンボルとなるペコちゃんの銅像を設置するなどの意見が挙げられた。

そのほか、観光客がまちを周遊するための取組として、バスで八雲町を周遊できる「1 日フリー切符」、「観光マップの設置」などが挙げられた。

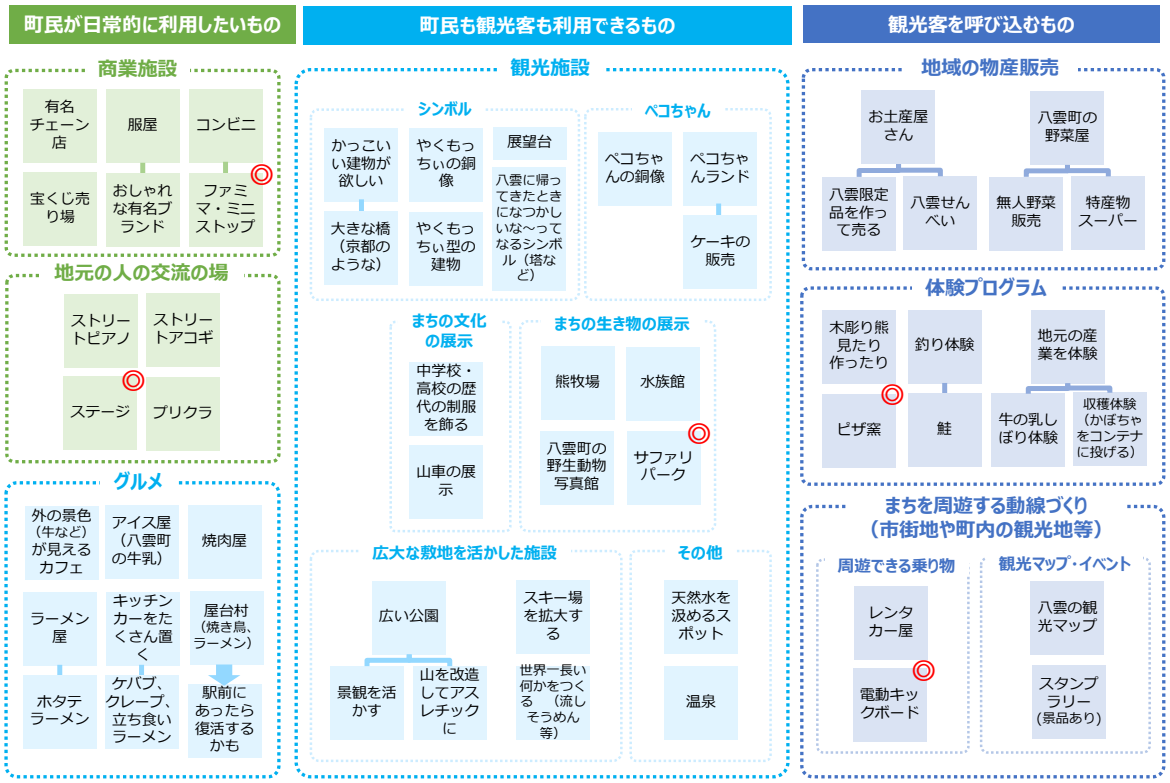
【A グループ】

【テーマ③　新八雲（仮称）駅前にあったら良いもの】



【B グループ】

【テーマ③　新八雲（仮称）駅前にあったら良いもの】　　◎：特にほしいもの



第3章　新駅周辺整備計画

3.1　基本コンセプト・整備方針

新駅周辺整備の基本コンセプト及び方針を検討するために、八雲町の現状及び新駅に関する政策や意見、今後の動向について以下のとおり整理した。

■現状

○八雲町の現状

・道内有数の酪農地帯（北海道近代酪農発祥の地)、ホタテやアワビ等の海産物も盛ん、木彫り熊の発祥の地
・太平洋と日本海の２つの海を有する
・道南の交通の要衝
・ほぼ日帰り観光客、道内客が多い傾向

○新駅の立地環境

・市街地から約３km離れた場所にあるため、二次交通の整備が必要
・駅前は農地が広がる
・新駅周辺には、遊楽部川水系音名川が流れている
・新駅の裏側は森林が広がる
・需要条件から、停車本数が限定されることが予想される

■新駅に関する政策・意見

○新駅周辺整備基本計画（H30）

・駅前広場や駐車場以外の施設機能は、大規模な機能誘導は行わず、牧歌的風景を売りにできる施設として、「農業の発展に寄与する施設」とし、民間との連携または民間事業の誘致を検討

○新駅のデザインコンセプト

牧場の中にある駅
～二つの海をもつ八雲の大地にたつ、牧歌的風景に調和したシンプルな駅～

○町民の意見

・高校生 WS での意見：
ガラス張りのレストランやカフェ(牧場が見えるイメージ)、体験(乳しぼりやピザ作り)を行えるスペース、地域の物産スペース等を希望
・推進会議での意見：
　・余計な工作物は作らず、市街地へ人を誘導させる
　・牧歌的な景観を損ねない形で、若者の意見を取り入れながら、駅前に牧場体験や飲食できるスペースを設ける

■今後の動向

〇インバウンドを含めた観光客の動向・見通し

・団体客から個人客へシフト

・インバウンド客増加が続くことが想定される

・旅行目的の多様化が進んでいる

〇新幹線開業以降に考えられる時代の潮流

・人口減少が進み、二次交通のドライバー不足が本格化

・自動運転など新たなデジタル技術の発展

・カーボンニュートラルの取り組みの推進（例：電気自動車の普及、太陽光発電の設置）

〇新幹線の広域的な利用の可能性

・八雲町民　　：札幌・東京方面への移動

・森町・檜山南部　：札幌方面への移動

・檜山北部　　：東京方面への移動

〇新幹線の利用のされ方

・貨客混載による速達性に優れた輸送サービスの浸透

前述の整理結果を踏まえ、新駅周辺整備の基本コンセプト及び整備方針を検討した結果を以下に示す。

基本コンセプト

マナビのマキバ
～ 食育をテーマに八雲の大地の恵みを世界へ発信 ～

整備方針１
適切な規模の交通結節点機能の整備

・現状の牧歌的風景を売りにした空間とするため、交通結節点として必要な駅前広場及び駐車場は、出来る限りコンパクトな整備とする。
・一方、駐車場については、将来の新駅周辺における観光等の需要拡大に対応できるスペースを確保する。

整備方針２
八雲町の新たな観光機能・生産機能の導入

・新駅周辺の農地を活かした牧歌的な風景にあった施設を前提に、まちの新たな魅力を創出する観光機能や八雲町の農畜産物や海産物等の資源を活用した生産機能の導入を検討する。
・また、これらの機能導入にあたっては、民間事業者とも連携を図り、民間のノウハウや資金の活用について検討する。

整備方針３
まちなかや観光地までの交通ネットワークの形成

・新駅は市街地から約 3 km離れていることから、新幹線利用の来訪客がスムーズに八雲町市街地や周辺観光地へアクセスできるよう二次交通の整備が必須である。
・このため、新幹線とバスやタクシー、自家用車等との円滑かつ安全な乗継環境が必要であり、駅舎および駅前広場等周辺においては、バリアフリーな空間整備を行う。

3.2　導入機能の検討

前述の新駅周辺整備の基本コンセプト及び整備方針を踏まえ、新駅の導入機能を検討した。なお、駐車機能は整備方針を、それ以外の導入機能はイメージを次頁より示す。

整備方針１
適切な規模の交通結節点機能の整備

・現状の牧歌的風景を売りとした空間とするため、交通結節点として必要な駅前広場及び駐車場は、出来る限りコンパクトな整備とする。
・一方、駐車場については、将来の新駅周辺における観光等の需要拡大にも対応できるスペースを確保する。

整備方針２
八雲町の新たな観光機能・生産機能の導入

・新駅周辺の農地を活かした牧歌的な風景にあった施設を前提に、まちの新たな魅力を創出する観光機能や八雲町の農畜産物や海産物等の資源を活用した生産機能の導入を検討する。
・また、これらの機能導入にあたっては、民間事業者とも連携を図り、民間のノウハウや資金の活用について検討する。

整備方針３
まちなかや観光地までの交通ネットワークの形成

・新駅は市街地から約３km離れていることから、新幹線利用の来訪客がスムーズに八雲町市街地や周辺観光地へアクセスできるよう二次交通の整備が必須である。
・このため、新幹線とバスやタクシー、自家用車等との円滑かつ安全な乗継環境が必要であり、駅舎および駅前広場等周辺においては、バリアフリーな空間整備を行う。

導入機能

- 駐車機能
- 飲食機能
- 物販機能
- 情報発信機能
- 工場・生産機能
- ふれあい・体験機能
- ガーデン機能

3.2.1　駐車機能

(1) 駐車場の台数の設定

既存の新幹線駅における乗車人員数と駐車台数の関係を整理すると、新駅で想定される乗車人員数に近似する駅として、安中榛名駅が挙げられる。安中榛名駅の平均乗車人員数は 280 人であり、駐車台数は 255 台分が整備されている。また、北海道新幹線木古内駅周辺では、計 385 台分の一般駐車台数が整備されている。

新駅の駐車台数は、平成 31 年 3 月に策定された「北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備基本計画」において算出された一般駐車場 102 台をベースとするが、新駅開業後の駐車需要の増加にも対応できるよう、上記事例も踏まえ、以下に示す駐車台数（一般駐車：216 台、身しょう者用：5 台、観光バス：4 台）を設定する。

なお、駐車場の整備にあたっては、開業当初は基本計画台数分程度を舗装、整備し、新幹線開業後の駐車場の利用状況に応じて、全駐車場の舗装化など段階的な整備を検討する。

表 3-1　新駅の駐車台数

	基本計画	基本計画から拡張
一般駐車台数	102 台	216 台
身しょう者用台数	2 台	5 台
観光バス待機場	4 台	4 台

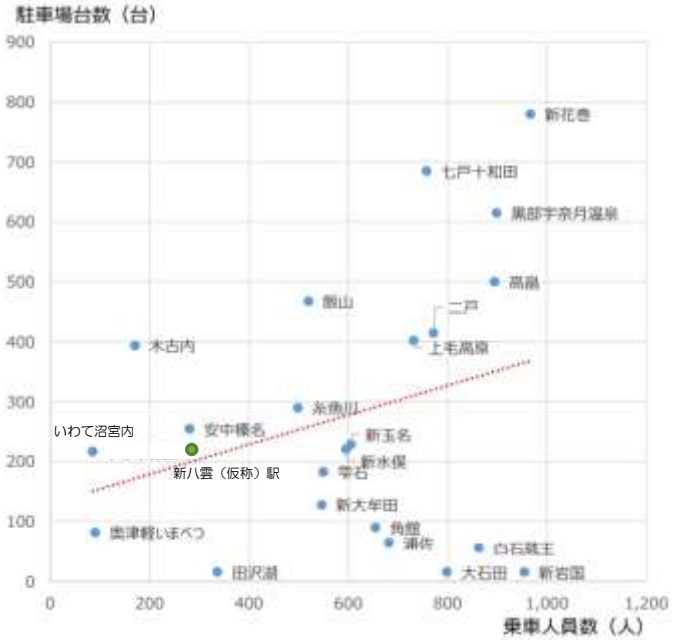


図 3-1　乗車人員数に対する駅周辺駐車台数の分布

（出典：「北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備　基本計画」（平成 31 年 3 月））

表 3-2　北海道新幹線木古内駅の駐車台数

	東駐車場	西駐車場	北駐車場
一般駐車台数	150 台 （普通車：143 台、 大型：7 台）	26 台	209 台
身しょう者用台数	4 台	2 台	—
キャンピングカー	5 台	5 台	—

(2) 駐車場の配置検討

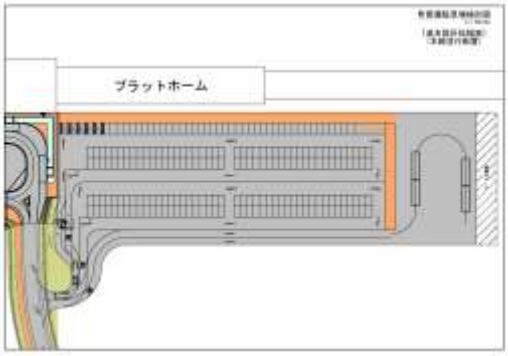
基本計画から拡張した駐車台数を基に、駐車場の配置案を検討した結果を以下に示す。

案①は、基本計画で示された駐車場を道道側に拡幅する案で、観光バスと一般自動車動線を明確に分離できる。

案②は、新幹線本線に並行に横長に拡幅する案で、歩行者の安全性及び新幹線駅ホームからの眺望に配慮している。

北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備推進会議において、新駅のデザインコンセプトである「牧場の中にある駅～二つの海をもつ八雲の大地にたつ、牧歌的風景に調和したシンプルな駅」を満たすには、新駅のホームから牧歌的な景観をみせられる案②の配置が望ましいという意見が挙げられた。

景観面のほか、歩行者の安全性の観点も踏まえ、新駅の駐車場の配置は案②の本線並行案とする。

	案① 基本計画から拡張した駐車場	案②基本計画から拡張した駐車場 （本線並行案）
配置図		
概要	・駐車場を正方形に近い形で配置した案。	・駐車場を新幹線本線に並行配置した案。
ﾒﾘｯﾄ	・観光バスと一般自動車の動線を明確に分離することができる。	・駐車マスから歩道が近いため、歩行者の安全性が高い。 ・新幹線ホームからの眺望は、駐車場のアスファルトの広がりが見えづらく、牧歌的風景の妨げが少なくなる。
ﾃﾞﾒﾘｯﾄ	・駐車マスから歩道までが遠いマスが多く、駐車場内を徒歩で移動する距離が長くなり歩行者の安全性が懸念される。 ・新幹線駅ホームからの眺望は、駐車場のアスファルトの広がりが見える形となり、牧歌的風景に支障をきたす。	・本線並行に配置する場合、案①と比べ、歩道の整備費が高くなる。 ・駐車場の停車位置によっては、駅まで距離があり、不便と感じる利用者もいるかもしれない。

以下に、道道八雲北檜山線までのアクセス道路を含めた新駅の駐車場の配置図を示す。

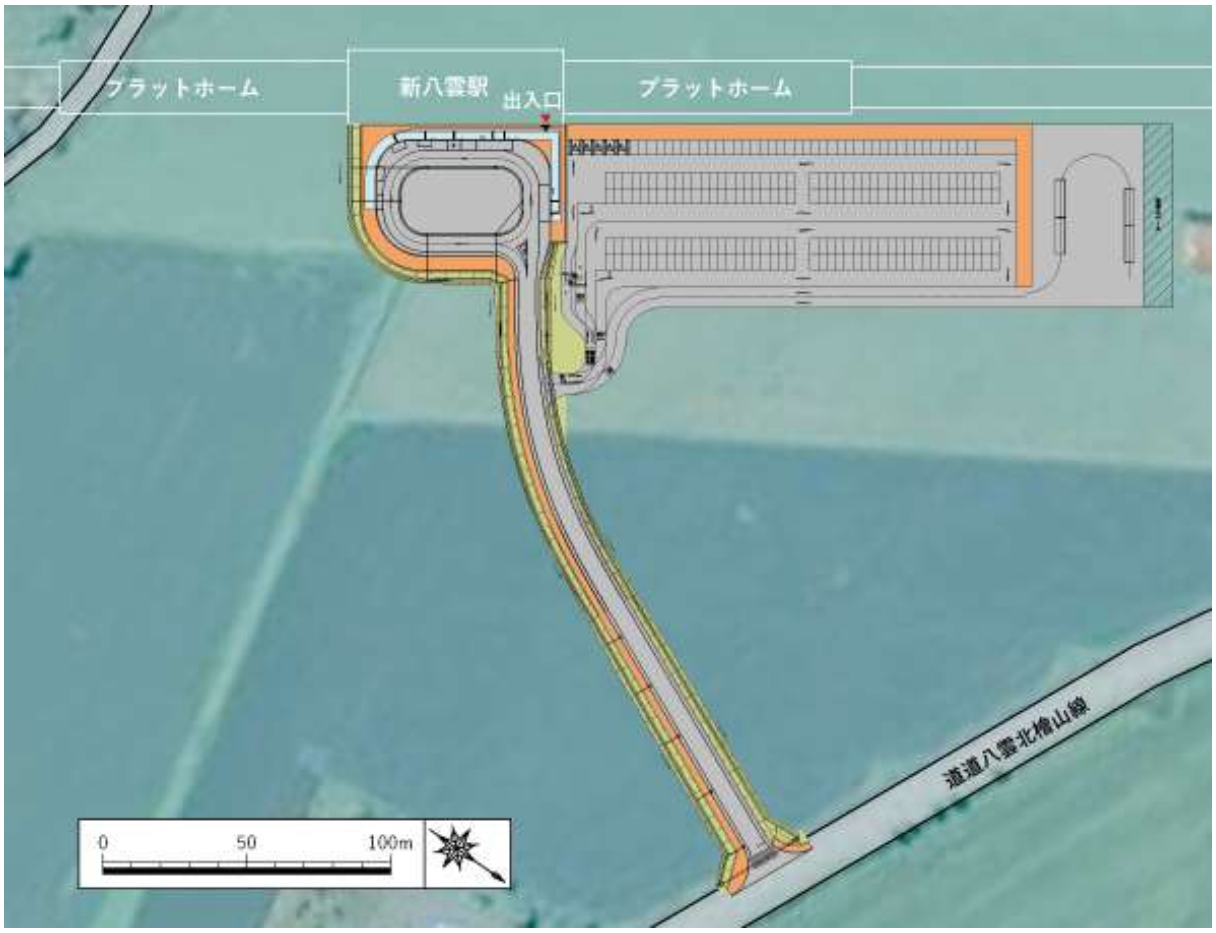


図 3-2　新駅駐車場の配置

(3) 屋根付き駐車場等の検討

積雪寒冷地である新駅の立地環境を考えると、新駅の利用者が快適に、冬でも除雪の必要がなく安心して止められるよう、屋根付き駐車場の整備が望ましい。

一方、屋根付き駐車場は通常より整備費用が多くかかることから、駐車台数の 1/2（108 台）または 1/4（54 台）を屋根付き駐車場として整備した場合の概算事業費を算出した。算出の結果、駐車台数の 1/2 の場合で約 911 百万円、1/4 の場合で約 661 百万円と 250 百万円の差となった。当面は新幹線開業後の駐車需要を見極めたいことから、駐車台数の 1/4 を屋根付き駐車場として整備する方針とする。

駐車場ゲートについては開業当初は設置せずに無料化とし、有料化については新幹線開業後の駐車場の利用状況に応じて検討する。

表 3-3　屋根付き駐車場の検討パターン

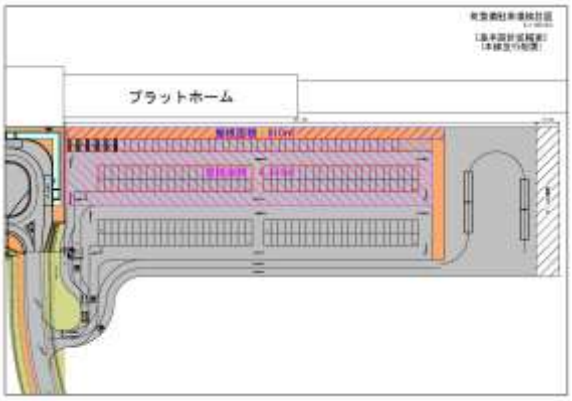
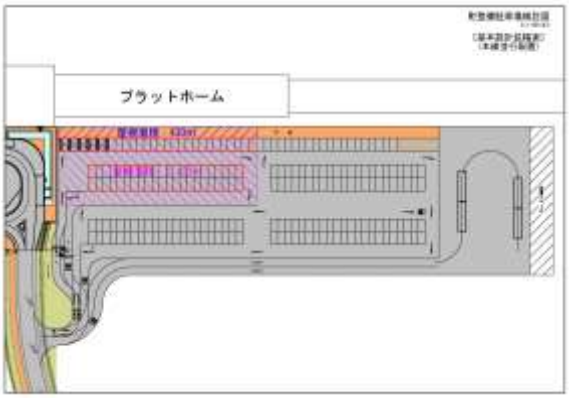
全駐車台数の“1/2”を 屋根付き駐車場とする案	全駐車台数の“1/4”を 屋根付き駐車場とする案
	

表 3-4　屋根付き駐車場の概算事業費

全駐車台数の“1/2”を 屋根付き駐車場とする案	全駐車台数の“1/4”を 屋根付き駐車場とする案
・駐車場整備 13,975.4 ㎡×20 千円/㎡　≒　280 百万円 ・駐車場ゲート　80 百万円 ・屋根（面積⇒延長換算） 【駐車場】1,560m×320 千円/m ＝ 499 百万円 【歩　道】　162m×320 千円/m ＝　52 百万円 計　911 百万円	・駐車場整備 14,043.4 ㎡×20 千円/㎡　≒　281 百万円 ・駐車場ゲート　80 百万円 ・屋根（面積⇒延長換算） 【駐車場】　850m×320 千円/m ＝ 272 百万円 【歩　道】　86m×320 千円/m ＝　28 百万円 計　661 百万円

【概算工事費の算定条件】
- 駐車場整備単価は 20 千円/㎡を想定（造成、舗装、区画線、雨水排水）
- 駐車場ゲートはメーカーヒアリングにより、80 百万円(設置費込み)を想定して各案に計上
- 屋根（単体）は 320 千円/m（過去事例による）として計上

3.2.2　飲食機能

新幹線の利用客や地域住民がゆったりとした時間を過ごすことができる、牧場と一体化したカフェレストラン。

■運営方針（案）

〇新幹線駅を利用しない人も、日常的に訪れたいと思えるような、ゆったりと時間を過ごすことができる空間を演出。

〇八雲町の乳製品を活用した、ソフトクリームや飲み物、スイーツ類の提供。

〇八雲町や周辺地域の特産品を活用し、地元飲食店とは競合しない分野のメニューの検討。

〇立寄り客やピーク時の回転率の向上も考慮し、テイクアウトメニューも提供。

■販売商品（イメージ）

・軽食：フィッシュアンドチップス（熊石のマスと今金男爵など）、ホットドッグ（日本ハム・八雲ユーラップブランドとの連携）等

・甘味：ソフトクリーム、ケーキ等

・飲物：チョコレートシェイク、コーヒー等

THINK’A　（弟子屈町）

ナイタイテラス　（上士幌町）

3.2.3　物販機能

「八雲のショーケース」を目指した上質なデザインを備えた空間づくり。

■運営方針(案)

〇新駅のデザインコンセプトで掲げる牧歌的風景に調和した自然の暖かみを感じる演出を施しつつ、地域のブランドイメージを高められるような上質な空間デザインとする。

〇近隣自治体を含めたエリア一帯のブランドイメージ向上を目指し、八雲町及び広域自治体（今金、せたな、乙部等）の中でもデザイン性・味に優れ、店舗のコンセプトに合致した選りすぐり産品のみを選抜。

〇閑散期における運営コストの最小化を目指し、飲食機能や観光案内機能と一体となったレジ機能を構築する。（窓口の一体化）

■販売商品（イメージ）

・地元客や立ち寄り型の客層でも買いやすい商品構成（ポーションサイズでの販売等）

・今後のふるさと納税枠での販売や越境 EC での流通も見越した流通戦略の検討

道の駅かみしほろ（上士幌町）

道の駅うれしのまるく（西九州新幹線　嬉野温泉駅）

3.2.4　情報発信機能

地域の旬の「食（グルメ）」情報＋地域と「食」に関する専門図書＋「食」べながら学び・憩える新たな八雲の食を創造するHUBエリアの創出。

■方針(案)

○八雲町及び周辺自治体の食に関する情報を、新駅利用者に広く情報発信する。

○新幹線の待ち時間を想定し、地域の食に対して学びを深めることができる図書スペースや展示スペースを検討。

○地域における食関連事業者のスタートアップ支援や地域外の経営資源（デザイン・資金・マネジメント等）との連携などを見据えたコワーキングスペースの設置。

○季節感のある地域の食に関する「旬」の情報提供を充実

■内容（イメージ）

・壁面を活用した手作り感のある広域グルメ＋観光情報マップ

・食に関する専門図書の設置（上記の広域マップの下のスペースを活用するイメージ）

・地域住民も日常利用できるような滞在空間の検討

地域の人たちで作られる観光情報マップ
（函館空港　観光案内所（函館市））

あたたかみを感じる観光マップ
（ 野遊びベースフリルフスリフ（札幌市定山渓））

施設内の図書スペース
（みんなの工場 by SHIRO（砂川市））

地域住民も利用できるコワーキング＋図書スペース＋台所
（サツドラホールディングス株式会社　本社2階（札幌市））

3.2.5　工場・生産機能

安心・安全な食と地域の誇りを伝える　生産機能の誘致・導入検討。

■方針(案)

○地域産の生乳を活用した小規模な乳処理工場や菓子づくり、醸造所等食品加工の生産機能の誘致を検討。

○生産現場における安心・安全な製品づくりの PR を意識し、製造ラインの見学スペースを設置。

○地域の酪農の歴史や商品のこだわりを伝えられるような仕組みを検討。

■内容（イメージ）

・八雲町で生産される生乳や畜産物を活用した加工工場の整備
・工場内部に、製造ラインを見学できるスペースを確保
・商品のこだわりまたは安全を PR するスペースの検討
・閑散期における従業員の安定的な稼働を目指す（夏は接客・冬期は工場）

牛乳の製造工程の一部を見学できるスペース
（あいす１１８（函館市））

ガラス越しに工場内部の様子を見学できるスペース
（みんなの工場 by SHIRO（砂川市））

エアシャワー体験コーナー

商品の歴史を学べる展示コーナー

食へのこだわりを伝えられるまたは体感できるスペース
（おいしさまっすぐ館（よつ葉乳業十勝主管工場））

3.2.6　ふれあい・体験機能

首都圏から訪れる新幹線利用者やニセコ・函館に来訪する海外客等をターゲットとした食の生産現場を体感できる機能の確保および体験メニューの検討。

■運営方針(案)

○新幹線駅利用者や外国人観光客が酪農の生産現場の体験ができるスペースやスタッフの体制を構築。(牛舎等の維持管理は地元事業者への委託を想定)

○ファミリー層を主なターゲットとし、初めて牧場を訪れる人でも簡単に体験できるメニューを検討。

■体験（イメージ）

・牛を中心とした乳しぼり体験やえさやり体験の他、トラクターでの周遊やバターまたはお菓子作り体験、搾りたての牛乳の試飲等

・仔牛やヤギ、ウサギとのふれあいコーナー

牛の乳しぼり体験ができるスペース
（あいす１１８（函館市））

動物へのえさやり体験
（ハイジ牧場（長沼町））

3.2.7　ガーデン機能

八雲ならではの気候や景観を活かした　四季の彩りを楽しめるガーデンの整備。

■方針(案)

○新駅を訪れた人の記憶に残り、また訪れたいと思ってもらえるよう、牧場の景観と調和したガーデンを整備。

○来訪客らに情報発信してもらえる「映え」空間の整備

○地域の四季に応じた集客やイベントにも対応できるような工夫

○冬季間の雪遊び場としての空間の活用も検討

○ハーブ類と飲食機能・物販機能との連携

■内容

・施設周辺の敷地を活用し、小規模なガーデンを整備

・開花時期をずらした多様な花畑の整備により長期間楽しめるよう配慮

店舗正面に花畑を整備
（ローズガーデンちっぷべつ（秩父別町））

敷地内にガーデンを整備
（ロイズ　ローズガーデン（札幌市））

3.3 新駅隣接施設の検討

「北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備基本計画」では、駅舎内で整備を想定する機能として、待合スペース・トイレ・自動販売機・荷物置き・各種受付窓口を設定しているが、全てのサービスを駅舎内に整備することは難しいと想定されるため、今後、新駅に隣接する施設の整備について検討する。

■方針(案)

○新駅利用者の利便性向上に向け、待合スペースやトイレ、観光案内・レンタカー・レンタサイクル等を集約した受付窓口を設けた、小規模な施設を駅に隣接した場所に整備。

■内容

・飲食物の自動販売機を設置し、飲食やＰＣ操作等ができる待合スペース
・荷物置き（コインロッカー等を想定)、トイレ
・観光案内、レンタカー・レンタサイクル等を集約した受付窓口

駅前を見渡せる２階の待合スペース

コインロッカー・トイレ

（七戸町観光交流センター（七戸町))

レンタカー受付等を集約した観光案内
（道の駅　みそぎの郷きこない（木古内町))

地域情報を発信する観光交流センター
（越前たけふ観光案内所（越前市))

3.4　土地利用ゾーニング

新駅周辺整備の基本コンセプト及び整備方針、導入機能の検討を踏まえ、新駅周辺エリアの特性から、土地利用ゾーニングとして、「ペコちゃん牧場ゾーン」、「観光交流・生産ゾーン」、「広場・緑地ゾーン」の３つのゾーンを設定した。

なお、各ゾーンの検討イメージを以下に示す。

3.4.1　ペコちゃん牧場ゾーン

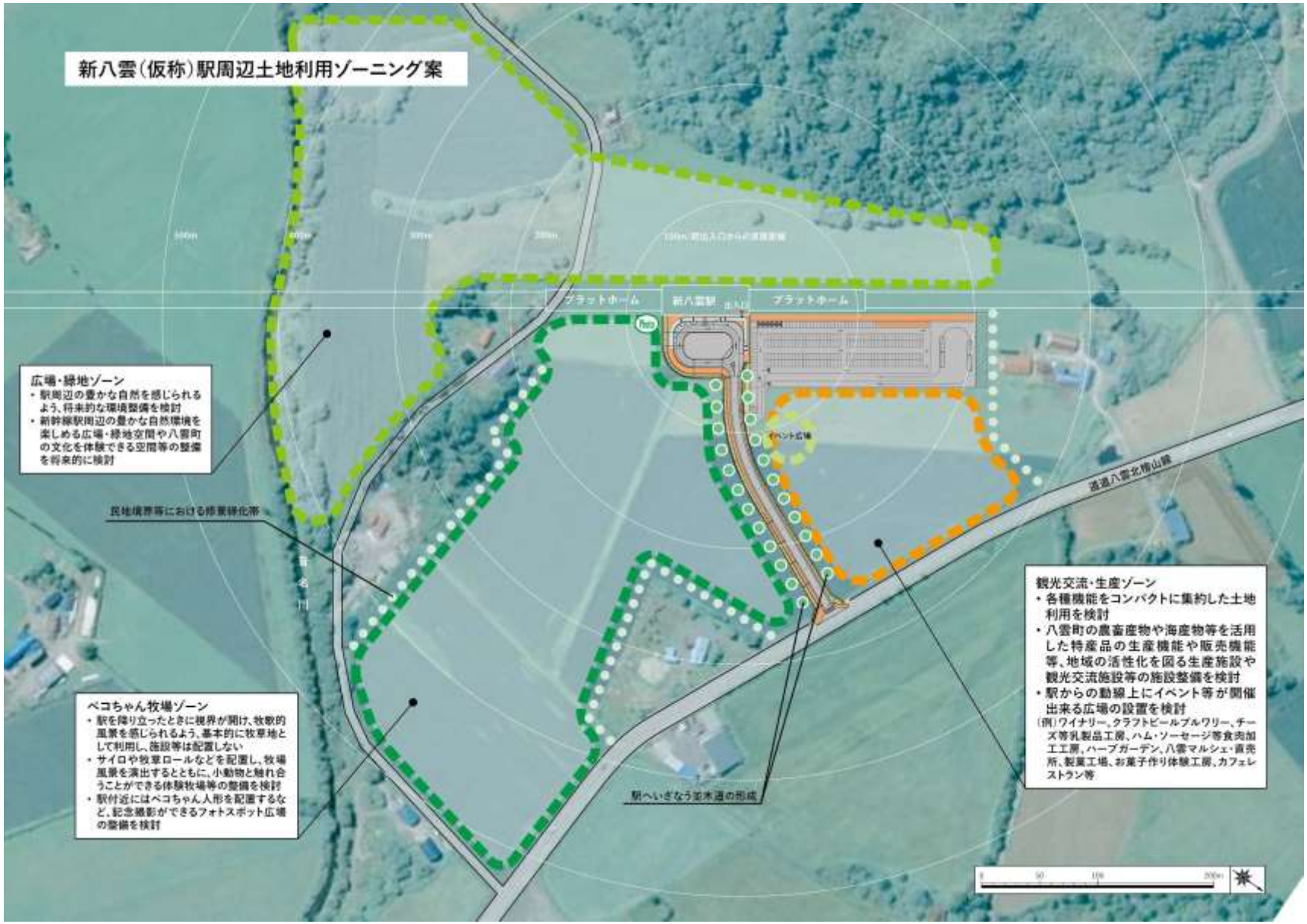
・アクセス道路東側のエリアは、駅を降り立ったときに視界が開け、牧歌的風景を感じられるよう、ペコちゃん牧場ゾーンとして位置づけ、基本的に牧草地として利用し、施設等は配置しないゾーンとする。
・具体的には、サイロや牧草ロールなどを配置し、牧場風景を演出するとともに、小動物と触れ合うことができる体験牧場等の整備を検討する。
・さらに、駅付近にはペコちゃん人形を配置するなど、記念撮影ができるフォトスポット広場の整備を検討する。

3.4.2　観光交流・生産ゾーン

・道道や駅駐車場からのアクセス性が高いアクセス道路西側のエリアは、観光交流・生産ゾーンとして位置づけ、各種機能をコンパクトに集約した土地利用を検討するゾーンとする。
・具体的には、八雲町の農畜産物や海産物等を活用した特産品の生産機能や販売機能等、地域の活性化を図る生産施設や観光交流施設等の施設整備を検討する。
・また、駅から動線上にイベント等が開催出来る広場の設置を検討する。

3.4.3　広場・緑地ゾーン

・駅の西側（駅裏）から音名川に至るエリアは、広場・緑地ゾーンとして位置づけ、駅周辺の豊かな自然を感じられるよう、将来的な環境整備を検討するゾーンとする。
・具体的には、新幹線駅周辺の豊かな自然環境を楽しめる広場・緑地空間や八雲町の文化を体験できる空間等の整備を将来的に検討する。


新八雲（仮称）駅周辺土地利用ゾーニング案
プラットホーム
新八雲駅
プラットホーム
イベント広場
国道八雲北檜山線
広場・緑地ゾーン
・駅周辺の豊かな自然を感じられるよう、将来的な環境整備を検討
・新幹線駅周辺の豊かな自然環境を楽しめる広場・緑地空間や八雲町の文化を体験できる空間等の整備を将来的に検討
民地境界等における修景緑化帯
ペコちゃん牧場ゾーン
・駅を降り立ったときに視界が開け、牧歌的風景を感じられるよう、基本的に牧草地として利用し、施設等は配置しない
・サイロや牧草ロールなどを配置し、牧場風景を演出するとともに、小動物と触れ合うことができる体験牧場等の整備を検討
・駅付近にはペコちゃん人形を配置するなど、記念撮影ができるフォトスポット広場の整備を検討
駅へいざなう並木道の形成
観光交流・生産ゾーン
・各種機能をコンパクトに集約した土地利用を検討
・八雲町の農畜産物や海産物等を活用した特産品の生産機能や販売機能等、地域の活性化を図る生産施設や観光交流施設等の施設整備を検討
・駅からの動線上にイベント等が開催出来る広場の設置を検討
（例）ワイナリー、クラフトビールブルワリー、チーズ等乳製品工房、ハム・ソーセージ等食肉加工工房、ハーブガーデン、八雲マルシェ・直売所、製菓工場、お菓子作り体験工房、カフェレストラン等

3.5　エリア全体の整備構想

前述のゾーニング図を踏まえ、次頁に、新駅及び新駅周辺の整備構想図を示す。

第4章　今後の課題

【開業時期の延期】

令和６年５月、鉄道建設・運輸施設整備支援機構は、北海道新幹線札幌延伸の 2030 年度末完成・開業は極めて困難と発表した。新たな開業目標時期も示されていないため、今後の事業スケジュールも先が見えない状況になっている。

しかし庁内や町民との議論を深める時間が取れたと捉え、駅周辺整備計画の検討は今後も継続していくことが必要である。

また、八雲町の新たな観光機能・生産機能の導入にあたっては、民間事業者とも連携を図り、民間のノウハウや資金の活用について検討することとしているが、開業時期が見えない中では民間事業者と具体の協議に入ることが難しい状況にある。

このため、民間活力を活用する機能や整備主体・運営主体等について、いくつかパターンを検討、整理するなど、引き続きの検討が必要である。

さらに、飲食・物販については、新幹線利用者のみを対象としては運営が厳しいことが想定され、地域での利用促進や広域的な集客方策の検討も必要と考えられる。

【社会経済状況の変化に応じた計画の見直し】

当初の開業時期であれば本計画策定から６年後の開業予定であったが、開業延期により策定から 10 年程度経過することが想定される。昨今の社会経済状況は変化が激しい中、本計画の内容についても適切な時期に柔軟に計画を見直していくことが必要である。

資料編

【策定経過】

年月日	事項・内容等
令和５年度	
８月１日	令和５年度第１回北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備推進会議開催 ・これまでの決定方針、新駅周辺整備計画策定業者、新駅に関する確認事項、新駅舎デザイン決定方法、今後のスケジュール等について説明
９月 21 日	第１回高校生ワークショップ開催
10 月 10 日	第２回高校生ワークショップ開催
11 月１日 ～11 月 17 日	北海道新幹線新八雲（仮称）駅舎デザインアンケートを実施
２月７日	令和５年度第２回北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備推進会議開催 ・前回会議等のレビュー、農業関連施設等の類似事例について説明 ・駐車場案、観光案内施設について協議 ・ワークショップ開催結果、新八雲（仮称）駅デザインアンケート結果について報告
令和６年度	
５月 14 日	令和６年度第１回北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備推進会議開催 ・前回会議のレビューについて説明 ・屋外駐車場、観光案内施設、駅周辺整備・ゾーニングイメージについて協議 ・駅舎デザイン推薦書（案）について報告
６月 14 日	鉄道・運輸機構へ北海道新幹線新八雲（仮称）駅のデザイン推薦書を提出
12 月 20 日	令和６年度第２回北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備推進会議開催 ・前回会議の振り返りについて説明 ・新八雲（仮称）駅周辺整備計画（素案）について承認
２月１日 ～３月２日	パブリックコメントを実施
３月４日	新八雲（仮称）駅周辺整備計画を策定

令和５年度第２回
北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備推進会議

令和６年度第１回
北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備推進会議

【北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備推進会議　委員名簿（令和 6 年第 2 回推進会議時点）】

No.	所属等	氏名
1	北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備推進会議会長	秋　松　　等
2	北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備推進会議副会長	都　築　享　子
3	JA 新はこだて青年部八雲青年部	柴　田　真　吾
4	春日二区町内会	小　川　藤　芳
5	山越郡森林組合　代表理事組合長	牧　野　　仁
6	山越郡森林組合　参事	長谷川　賢　子
7	八雲町漁業協同組合　専務理事	小　川　勝　士
8	落部漁業協同組合　専務理事	鎌　田　和　弘
9	八雲商工会　青年部　部長	中　田　拓　希
10	八雲商工会　女性部　副部長	大久保　和　恵
11	八雲観光物産協会　事業部会　副部会長	小　西　雄　一
12	八雲建設協会　理事	中　村　　兆
13	八雲町社会福祉協議会　会長	大　野　尚　司
14	若人の集い　事務局長	政　田　翔　太
15	一般公募	稗　田　俊　一
16	一般公募	佐　藤　　馨
17	一般公募	長谷部　　修

（敬称略）

【北海道新幹線新八雲（仮称）駅デザイン（案）】

提供：JRTT 鉄道・運輸機構

令和６年６月 14 日　鉄道・運輸機構へ当デザインを推薦

北海道新幹線新八雲（仮称）駅　駅周辺整備計画

発行日：令和７年３月
編集　：北海道八雲町政策推進課
〒049-3192　北海道二海郡八雲町住初町 138 番地
TEL　0137-62-2111（代表）
TEL　0137-62-2300（直通）　FAX　0137-62-2120
E-mail　shinkansen@town.yakumo.lg.jp
HP　https://www.town.yakumo.lg.jp/